

令和2年度

岩手県立博物館  
年報



# 岩手県立博物館令和2年度年報



冬の岩手県立博物館  
令和2年12月20日撮影

# 目で見る岩手県立博物館この1年



開館40周年告知バナー



テーマ展 化石の水族館  
令和2年3月14日(土)～8月23日(日)



博学連携事業  
大漁バンテン製作(平館高校)



テーマ展 化石の水族館 展示解説会  
令和2年8月8日(土)



館園実習  
令和2年8月22日(土)



テーマ展 個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～  
展示解説会  
令和2年10月11日(日)





第80回地質観察会（釜石市栗林町）  
令和2年10月25日（日）



文化講演会  
令和2年11月3日（火）



倉沢人形歌舞伎公演  
令和2年11月8日（日）



テーマ展 いわたの政治物語—幕末・明治・大正—  
展示解説会  
令和2年12月26日（土）



教員のための博物館の日  
令和2年12月27日（日）



文化財等取扱講習会  
令和3年1月28日（木）～1月29日（金）



幕末の文書読み  
令和3年2月6日（土）



ストーンサークル  
テーマ展 縄文いわての環状列石  
令和3年3月14日（土）～5月6日（水）

# 目次

目で見る岩手県立博物館この1年・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 前付 -

## 巻頭言（40周年を迎えて）

1. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 4 -

## 2. 施設の概要

(1) 建築の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 6 -

(2) 施設配置図・展示室等平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 6 -

(3) 各室面積表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 7 -

3. 博物館協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 8 -

4. 予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 9 -

## 5. 事業の概要

(1) 展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 10 -

(2) 教育普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 19 -

(3) 調査研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 40 -

(4) 資料収集保管活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 50 -

(5) 総務企画調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 58 -

(6) 岩手県立博物館の新型コロナウイルスへの対応について・・ - 63 -

## 6. 被災文化財等再生活動

- (1) はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 65 -
- (2) 被災文化財の再生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 65 -
- (3) 被災文化財再生技術の普及・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 66 -
- (4) 被災地支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 67 -
- (5) 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 67 -

## 7. 岩手県立博物館友の会

- (1) 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 69 -
- (2) 会員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 69 -
- (3) 主催事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 69 -

## 8. 博物館利用者入館状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 71 -

## 9. 令和2年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織・・・・・・・・・・・・ - 74 -

## 10. 岩手県立博物館使命書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 75 -

## 11. 関係条例・規則等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 76 -

## 刊行にあたって (岩手県立博物館40周年を迎えて)

令和2年は、岩手県立博物館開館40周年の記念すべき年でした。当館は、昭和55年10月5日、「郷土に対する知識と理解を深め、未来の岩手の可能性を認識して、教育、学術、文化の発展と、郷土を築く県民の意欲の高揚に寄与する」と、「今日の博物館は、従来の博物館が持っていた単なる収集品の保存及び展示物という考えに止まらず生涯教育の拠点として、年齢、性別、学歴を問わず誰でもが、いつでも地域社会における産業、文化、生活を創造するために学習できる場を設置する」という基本構想のもとに、県制百年を記念して開館しました。

開館時から40年間、総合博物館として原始から現代に至る岩手の歴史の流れと時代の特色が展観できる展示に努めてきました。考古・歴史・民俗・自然など、分野ごとに専門的な展示を行う分類展示、特別に設定したテーマに基づいて行う企画展示、更には特色ある民家等での展示等においても県民の期待に応えるべく、常に創意工夫を凝らしながら今日に至っております。

当館ではこれまで周年行事として、10年ごとに特別企画展を実施してまいりました。平成2年、開館10周年には、「北の鉄文化展」を、平成12年の20周年には、「北の馬文化展」を、平成22年の30周年では、「いわての漆展」を開催しました。

今年度の開館40周年記念特別企画展では、「みる！しる！わかる！三陸再発見」をテーマとして、三陸地方のまだ広く知られていない部分に光を当て、三陸とはどのような地域であるのかを、自然史・文化史の観点から多角的に紹介する予定でございました。また、今年度は東日本大震災から10年目にあたり、記憶を新たにし、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を高める契機にしたいとも考えておりました。しかしながら、昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染拡大のために、開館40周年記念事業のほとんどが中止、または、延期を余儀なくされました。残念ながら予定された多くの記念事業はできませんでしたが、ご支援をいただいていた、特にも沿岸地域の皆さまのためにも、記念事業の企画を再度立ち上げたいと考えています。

今年度の特別企画展は実施できませんでしたが、予定されていたテーマ展「化石の水族館」、「個性派役者勢揃い〜岩手の繰り人形〜」、「いわての政治物語 - 幕末・明治・大正 -」、「縄文いわての環状列石」は、新型コロナウイルス禍の中、何とか開催することができました。感染防止対策を徹底しながらの展示会開催ではありましたが、県民の皆さまのご協力ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

次に、当館が東日本大震災以後、継続して取り組んでまいりました被災文化財修復作業ですが、今年度で9年目を迎えました。被災した県内の「郷土の宝」を救うため、県立博物館でも震災直後から被災した陸前高田市博物館等の資料の受け入れを開始し、全国の専門機関と連携して被災文化財の再生に取り組んできました。今年度で被災文化財約46万点のうち28万点余りの修復が終わりました。この被災文化財修復作業は、地域の文化や歴史を過去から未来につなぐ作業でもあり、全ての文化財修復の完了を目指して作業を続けております。

最後になりますが、「岩手県立博物館使命書」が平成20年に制定されました。使命書には、「私たち岩手県立博物館は5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史的変遷、地域性豊かな多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館として機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指す」ことが記されています。

この使命書に基づき、更に創立50周年、60周年に向け、県民と一体となった博物館活動の促進を図ってまいりたいと思います。そして、開館当初より目指してきた「開かれた博物館、行動する博物館、親しまれる博物館」を指針に、多くの方に繰返し足を運んでいただき、「楽しかった。もう一度来てみたい」と思われるような岩手県立博物館であり続けたいと考えています。今後とも皆様の一層のご支援をお願いいたします。

令和3年5月

岩手県立博物館長

高橋 廣 至



## 1. 沿革

- 昭和 48 年 4 月 県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3 名）を設置
- 昭和 48 年 5 月 県庁内に副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置  
昭和 48 年 6 月 博物館資料調査委員（委員 22 名）を委嘱
- 昭和 48 年 7 月 民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員 25 名）を設置
- 昭和 48 年 8 月 展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員 20 名）を設置
- 昭和 49 年 4 月 県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班 10 名）を設置
- 昭和 50 年 5 月 博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員 6 名）を設置
- 昭和 51 年 1 月 県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
- 昭和 51 年 10 月 建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
- 昭和 52 年 4 月 博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17 名）を設置
- 昭和 53 年 6 月 起工式
- 昭和 53 年 10 月 展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
- 昭和 54 年 11 月 定礎式
- 昭和 55 年 7 月 博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
- 昭和 55 年 7 月 コンパニオン（非常勤専門職員 15 名）任用
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館設置
- 昭和 55 年 10 月 落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4 日）
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館開館（5 日）
- 昭和 55 年 10 月 日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
- 昭和 56 年 3 月 第 1 回岩手県立博物館協議会開催
- 昭和 59 年 10 月 皇太子同妃両殿下ご来館（14 日）
- 昭和 60 年 4 月 財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
- 昭和 62 年 5 月 入館者 100 万人を突破（1 日）
- 平成 元年 3 月 地質総合展示室改修完了
- 平成 2 年 5 月 岩手県立博物館友の会設立（1 日）
- 平成 2 年 7 月 歴史古代展示室改修完了
- 平成 2 年 10 月 開館 10 周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
- 平成 3 年 2 月 入館者、県民人口を超える（14 日）
- 平成 3 年 11 月 入館者、150 万人を達成（1 日）
- 平成 3 年 12 月 歴史中世展示室改修完了
- 平成 4 年 1 月 コンパニオンを「解説員」に改称
- 平成 5 年 2 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館（5 日）
- 平成 5 年 3 月 現勢展示室イヌワシの山改修完了
- 平成 5 年 10 月 国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
- 平成 5 年 10 月 皇太子殿下ご夫妻ご来館（10 日）
- 平成 6 年 1 月 「中尊寺黄金秘宝展」開催
- 平成 6 年 12 月 屋上改修工事完了

平成 9 年 12 月 文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催

平成 8 年 4 月 重要文化財勸告出品館となる

平成 9 年 2 月 重要文化財公開承認施設となる

平成 9 年 7 月 入館者、200 万人を達成 (16 日)

平成 10 年 1 月 ハイビジョン室設置

平成 12 年 3 月 収蔵庫等改修工事完了

平成 12 年 3 月 企画展第 50 回目を迎える (「岩手の経塚」)

平成 12 年 10 月 開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催

平成 13 年 5 月 近代美術展示閉鎖 (美術館へ移管)

平成 14 年 3 月 マメンキサウルス (モシリユウ) 全身骨格複製標本展示

平成 18 年 4 月 施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。(財)岩手県文化振興事業団が指定管理者となる

平成 21 年 1 月 入館者、250 万人を達成 (10 日)

平成 21 年 4 月 (財)岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる

平成 22 年 1 月 外部階段改修工事完了

平成 22 年 10 月 開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催

平成 23 年 3 月 美化事業完了

平成 24 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる

平成 24 年 12 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館 (20 日)

平成 25 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(22 日)

平成 26 年 3 月 文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20 日)

平成 26 年 3 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置 (建築面積 115.22 m<sup>2</sup>、延床面積 230.44 m<sup>2</sup>)

平成 26 年 5 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所 (可視化により一般公開)

平成 27 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(14 日)

平成 27 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 4 期目の指定管理者となる

平成 28 年 1 月 文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史～」開催

平成 29 年 3 月 中央監視システム更新工事完了

平成 29 年 3 月 旧佐々木家・旧藤野家住宅保存修理 (屋根) 工事完了

平成 29 年 3 月 正面入口案内看板設置

平成 29 年 8 月 ボイラー更新工事完了

平成 30 年 2 月 岩手山眺望確保のための樹木剪定

平成 30 年 3 月 昇降機改修工事完了

平成 30 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 5 期目の指定管理者となる

平成 30 年 12 月 マメンキサウルス補修工事完了

平成 31 年 1 月 不活性ガス消火設備更新工事完了

令和 元年 12 月 非常用発電機更新工事完了

令和 2 年 3 月 冷却塔更新工事完了

令和 2 年 9 月 「岩手県立博物館の今後の在り方検討会」設置 (県教育委員会)

令和 2 年 10 月 開館 40 周年を迎える (新型コロナウイルス感染拡大により記念特別展延期)

## 2. 施設の概要

### (1) 建築の概要

〈総工事費〉 44億3,000万円

〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

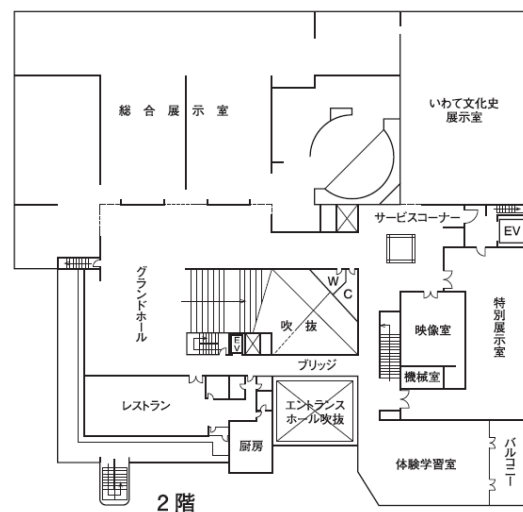
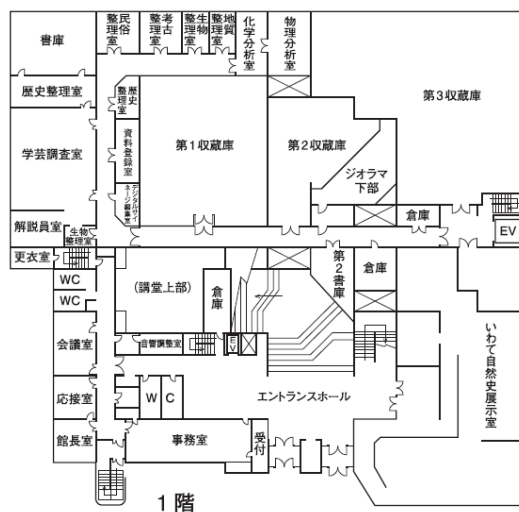
※仮施設の面積等は含んでいない

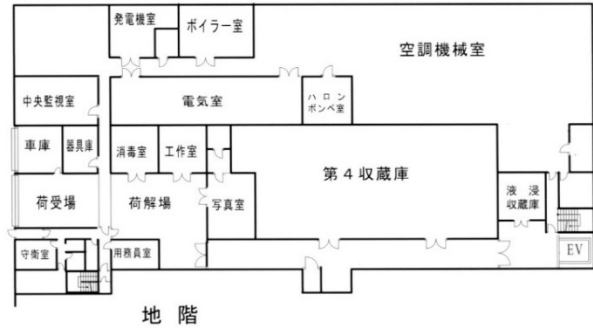
### (2) 配置図・展示室等平面図



#### 駐車場面積

第1駐車場	2,804.4㎡	普通車62台
第2駐車場	1,251㎡	普通車12台、大型バス14台
第3駐車場	410.9㎡	普通車8台
身障者等用駐車場	93.5㎡	普通車5台





### (3) 各室面積表

部屋名	面積 (㎡)
空調機械室	766.09
発電気室	50.26
蓄電気室	9.71
ボイラー室	64.36
中央監視室	64.67
電話交換機室	8.89
電気室	142.54
ハロンポンベ室	37.86
消火栓ポンプ室	17.14
エレベーター機械室	20.52
第4收藏庫	464.48
第5收藏庫(液浸)	39.72
エレベーターシャフト	18.24
車庫	38.33
器具庫	25.24
消毒室	37.86
工作室	35.90
暗室	11.91
作業室	4.06
写真室	52.94
荷受場	79.63
荷解場	113.75
用務員室	26.39
守衛室	18.00
宿直室	21.17
湯沸室	3.81
浴室	5.71
便所	6.75
タラップ室	6.75
フォークリフト置場	12.75
廊下・階段・その他	280.32
小計	2,485.75
いす保管庫	98.61
外部用倉庫	20.38
教室	81.07
準備室	22.83
実技室	115.66
便所	29.02
講堂	164.09
効果室	14.50
ホワイエ	68.29
タラップ室	5.14
廊下・その他	232.78
小計	852.37

部屋名	面積 (㎡)
いわて自然史展示室	729.27
パネル倉庫	35.56
風除室	3.21
受付	18.65
印刷室	8.50
事務室	116.01
館長室	43.33
応接室	41.40
会議室	64.23
倉庫	14.25
身障者便所	6.47
No.3便所	43.85
No.2便所	39.67
音響調整室	20.84
同上前室	10.28
予備室	32.07
ロッカー室	10.45
女子更衣室	20.55
学芸調査室	236.04
歴史整理室	59.21
書庫	113.36
民俗整理室	35.84
考古整理室	35.84
生物整理室	25.10
地質整理室	25.20
歴史整理室	35.43
第1資料登録室	21.90
化学分析室	41.66
物理分析室	53.94
デジタルサイネージ編集室	20.72
第1收藏庫	365.15
第2收藏庫	188.25
第3收藏庫	608.38
倉庫	9.18
第2書庫	42.69
ジオラマ下部	119.13
グランドホール	133.19
ロビー1	101.79
ロビー2	35.84
階段・廊下・その他	888.10
小計	4,454.53

部屋名	面積 (㎡)
総合展示室	1,553.85
県土の誕生	102.35
いわての夜明け	187.60
いわてのあゆみ	743.20
庶民のくらし	210.00
いわての今	310.70
いわて文化史展示室	489.07
ミニプラザ(1)	210.42
ミニプラザ(2)	129.50
特別展示室	292.20
映像室	124.00
No.4便所	30.11
体験学習室	217.17
厨房	54.93
休憩室	160.08
休憩室便所	10.98
厨房事務室	10.24
厨房便所	4.16
食品庫	6.90
グランドホール	213.66
階段・廊下・その他	618.20
小計	4,125.47
塔屋	133.44
合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 ㎡
- 收藏庫面積 1665.98 ㎡
- 学芸調査室 236.04 ㎡
- 研究室 274.91 ㎡

### 3. 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。令和2年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：令和3年1月26日（火）

場所：岩手県立博物館会議室

報告・協議事項

- ・令和元年度博物館協議会の意見等への対応状況について
- ・令和2年度博物館事業実施状況について
- ・新型コロナウイルス感染防止に向けた博物館の対応状況について
- ・令和3年度博物館事業計画（案）について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 令和3年6月22日まで）

氏名	職	分野
阿部 真一	盛岡市立緑が丘小学校長	学校教育 県小学校長会
松葉 覚	盛岡市立下橋中学校長	学校教育 県中学校長会
五日市 健	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
松田 恵美子	岩手県青年団体協議会会長	社会教育
大坊 邦子	特定非営利法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
壽松 木亨	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	社会教育
齋藤 桃子	石神の丘美術館主任学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
星 俊也	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
細越 千絵子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県立博物館友の会
及川 亜希子	(株)岩手日報社編集局学芸部次長	学識経験者
松政 正俊	岩手医科大学教授	学識経験者
菅野 文夫	岩手大学教授	学識経験者
山本 玲子	啄木ソムリエ・岩手県文化財保護審議会委員	学識経験者
沼里 由紀子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者

（令和3年3月31日現在）



## 4. 予算

(単位:千円)

項 目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
管理運営費	170,462							
総務企画調整費	5,243	3,759	4,172	3,945	3,782	5,317	4,471	3,984
展示活動費	11,673	10,074	7,090	10,826	8,115	3,949	7,443	6,619
資料収集保管活動費	40,319	29,894	27,599	21,846	21,983	22,817	20,911	21,109
調査研究活動費	7,273	7,326	7,585	7,276	7,304	7,556	6,921	6,703
教育普及活動費	1,987	1,633	1,683	1,798	1,558	1,616	1,664	1,770
業務管理費		37,699	34,282	34,155	33,251	32,439	32,122	32,529
指定管理者事業費		127,861	130,034	129,269	132,832	131,395	132,600	130,502
計	236,957	218,246	212,445	209,115	208,825	205,089	206,132	203,216

項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
総務企画調整費	3,807	3,442	3,882	3,401	3,380	3,328	3,152	4,082
展示活動費	6,811	7,589	9,686	11,321	8,262	6,198	10,095	16,253
資料収集保管活動費	21,446	19,911	20,086	18,304	18,951	18,342	31,125	37,095
調査研究活動費	6,611	5,956	4,986	3,438	3,428	3,460	3,339	3,936
教育普及活動費	1,515	1,295	1,275	444	454	507	493	471
業務管理費	33,880	35,950	36,277	34,449	34,735	32,085	41,130	43,448
指定管理者事業費	130,401	133,050	132,345	134,334	134,146	136,914	138,015	139,213
計	204,471	207,193	208,537	205,691	203,356	200,834	227,349	244,498

- ※ 1 職員の人件費を除く  
 2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成27年度は特別展「近代へのとびら」展、平成28年度は特別展「スポーツ博覧会いわて」展開催に係る特別予算を加算した。  
 3 総務企画調整は17年度から項目を起こした。  
 4 18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。  
 5 令和2年度予算のうち展示活動費には、40周年特別展の開催経費全体が含まれること。(当該事業は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期となった。)

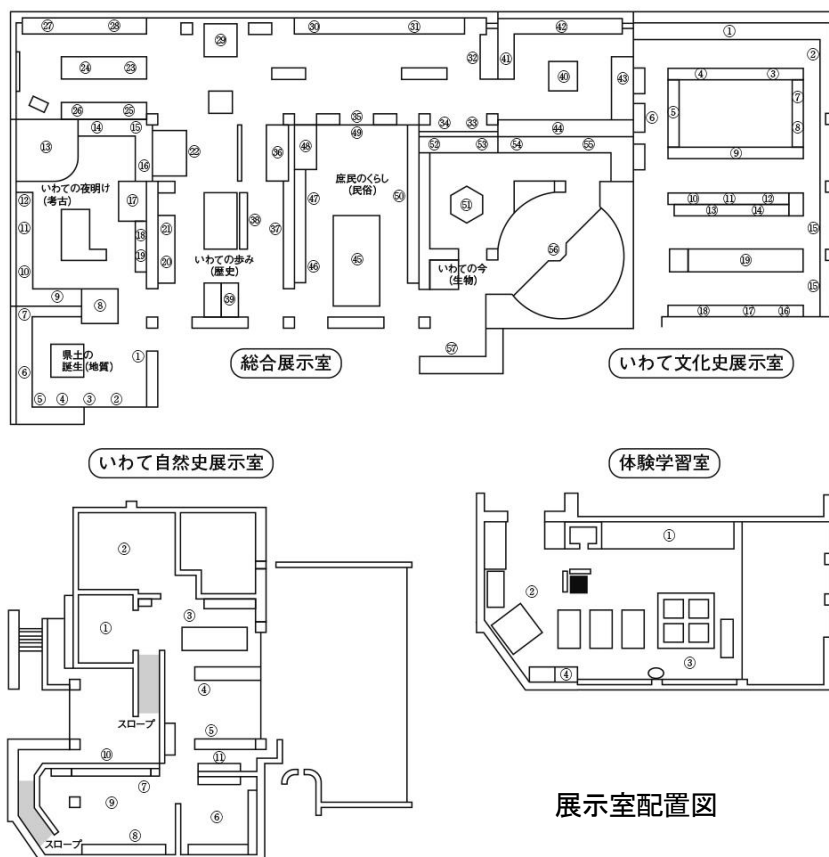
## 5. 事業の概要

### (1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集した資料をはじめ、入手困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきたが、令和2年度（2021年3月31日）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、333,385点に及んでいる。その中でも、常設展示されるものはわずか2,000点に過ぎず、この他の資料は5つの収蔵庫に保管されたままの状態となっている。これらについては、季節や年中行事にあわせた展示替え、トピック展示やコラム展示の際に活用し、より多くの県民の目に触れることが出来るよう心がけている。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古に関連する人文系資料、いわて自然史展示室には地質・生物など、自然史に関する専門的な資料が展示されている。この他に、エントランスホールやミニプラザでトピック展示などを行うなど、展示の機会を増やすよう努力している。

令和2年度は、40周年記念展「みる！しる！わかる！三陸再発見」を開催予定であったが、コロナ感染症予防対策のために中止を余儀なくされ、その期間については、前年度から行っていた地質部門テーマ展「化石の水族館」を延長して開催した。その後は、民俗部門「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」、歴史部門「いわての政治物語-幕末・明治・大正-」、考古部門「縄文いわての環状列石」の、3本のテーマ展を順次開催した。



## ア. 展示構成

### エントランスホール

- ・兜蹴毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手の眺望

### 総合展示室

- 県土の誕生(地質)
  - 1 県土のおいたち
    - (1) 東北地方の地下断面
    - (2) 気仙隕石
    - (3) 岩手県の地質と岩石
  - 2 いわたの古生物相の変遷
    - (4) 生命史以前
    - (5) 古生代の生きもの
    - (6) 中生代の生きもの
    - (7) 古第三紀～新第三紀の生きもの
    - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの
- いわたの夜明け(考古)
  - 3 旧石器時代
    - (9) 氷河期の人びと
  - 4 土器の時代
    - (10) 岩手の縄文土器
    - (11) 貝塚の形成
    - (12) 埋葬と装飾品
    - (13) 縄文人の暮らし
    - (14) 大洞文化
  - 5 稲作を始めた時代
    - (15) 弥生文化と岩手
  - 6 古墳を築いた時代
    - (16) 拓かれる北上平野
    - (17) 群集墳
    - (18) 集落と住居
    - (19) 生産技術の変革
- いわたの歩み(歴史)
  - 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
    - (20) 古代の城柵
    - (21) 安倍氏の台頭
    - (22) 奥州平泉とその文化
  - 8 戦乱の時代とその文化(中世)
    - (23) 文治五年奥州合戦
    - (24) 豪族たちの動きと庶民
    - (25) 新しい仏教文化
    - (26) 九戸政実の乱
  - 9 藩制時代の人々(近世)
    - (27) 藩政の確立
    - (28) 凶作と一揆
    - (29) 盛岡城と町づくり
    - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
  - (32) 街道と舟運
  - (33) 藩学と寺子屋
  - (34) 先駆者たち
  - (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
    - (36) 生活の洋風化
    - (37) 岩手県の誕生
    - (38) 明治時代から大正時代へ
    - (39) 太平洋戦争
  - 11 古美術
    - (40) 鐔
    - (41) 絵画・工芸
    - (42) 刀剣
    - (43) 絵画・工芸
    - (44) 絵画
  - 庶民の暮らし(民俗)
    - 12 家の暮らし
      - (45) いろり
      - (46) 正月の行事
      - (47) 庶民の信仰
    - 13 働く人びと
      - (48) 農村の人びと
      - (49) 漁村の人びと
      - (50) 山村の人びと
    - 14 まつりと芸能
  - いわたの今(現勢・生物)
    - 15 わたしたちの郷土いわた
      - (51) 岩手県地形模型
      - (52) 岩手の四季
      - (53) 県の鳥・木・花
    - 16 恵まれた自然
      - (54) 岩手の風土
      - (55) 山や川の生き物
      - (56) イヌワシの山
      - (57) 豊かな海

### いわて自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き  
ー鉱物コレクションー
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と  
被災文化財等救援活動

### いわて文化史展示室

#### 考古

- (1) 岩手の土器
  - (2) 北上山系の洞穴遺跡
  - (3) 岩手の石器と鉄器
  - (4) 三陸の貝塚
  - (5) 豊岡遺跡
  - (6) 柳之御所遺跡
- #### 歴史
- (7) かたな・刀装具の世界～鐔～
  - (8) かたな・刀装具の世界～鐔～  
錦絵・引札
  - (9) 利剛公と明子姫
  - (10) かたな・刀装具の世界～鐔～
  - (11) かたな・刀装具の世界～鐔～
  - (12) かたな・刀装具の世界～鐔～

#### 民俗

- (13) 森口多里コレクション
- (14) オシラサマ  
絹と麻・いわての養蚕
- (15) いわたの冬の暮らし
- (16) いわたの民芸
- (17) 郷土料理
- (18) 南部絵暦
- (19) むかしの暮らし大図鑑

### 体験学習室

- (1) 身につける  
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす  
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ  
かるた、板がえし等
- (4) よむ

### 屋外展示

#### 民家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)  
奥州市江刺区伊手御堂
- ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)  
下閉伊郡岩泉町指畑

#### 散策広場

- ・植物園  
県内の植物等 345 種
- ・岩石園  
火山岩、変成岩、堆積岩 49

## イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

長期間の展示による資料の劣化・退色防止、および季節や年中行事などに合わせた展示とするため、常設展示では不定期に展示替えを行っている。さらに、企画展やテーマ展に間接的に関わる資料や、夏休み・冬休みを主体として子供向けの資料をトピック展示した。

表5(1)-1 令和2年度の主な展示替え・トピック展

No.	担当	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
1	民俗	総合展示室（民俗）	展示替え	武者人形・陶器人形		4.17～5下旬
2	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	盛岡竿		5.4～
3	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	不動明王	鎌田コレクション	5.6～7.19
4	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	むかしのくらし大図鑑【夏】		5.17～10.03
5	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	疫病退散を願う	鎌田コレクションほか	7.21～8.30
6	民俗	総合展示室（民俗）	展示替え	岩手の民俗芸能の記録（昭和20～30年代）	森口多里コレクション	8.01～
7	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	まいりのほとけ	阿弥陀如来図、黒駒太子、六字名号	9.18～
8	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	むかしのくらし大図鑑【秋】	照明具ほか	10.04～11.22
9	民俗	ミニプラザ（壁側）	トピック展	エビスさま	花巻人形、七福神図、オカザリ、大漁カンバン	11.01～11.23
10	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	むかしのくらし大図鑑【冬】	カイロほか	12.05～
11	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	いわての冬のくらし	森口多里コレクション	12.19～
12	民俗	総合展示室（民俗）	展示替え トピック展	雛人形	花巻人形、芥子雛	2.19～4.2
13	民俗	いわて文化史展示室（民俗）	展示替え	東日本大震災被災関連資料	三上時計店の大型時計	2.25～
14	生物	いわて自然史展示室	トピック展	カラフルな夏鳥たち	鳥類本剥製（アオジ・アカショウビン・アカハラ・オオルリ・キビタキ・クロジ・クログミ・コマドリ・コルリ・サンコウチョウ・センダイムシクイ・トラツグミ・ノゴマ・ノジコ・ヤイロチョウ・ヤマショウビン）	5.19～8.30
15	生物	いわて自然史展示室	トピック展	秋の渡り鳥	鳥類本剥製（アオアシシギ・オオジシギ・オナガガモ2・ハチクマ・ヒヨドリ・マガン・ダイゼン）	10.1～11.29

No.	担当	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
16	生物	いわて自然史展示室	トピック展	毛皮	ツキノワグマ(トロフィー、毛皮)、ヒゲマ(毛皮)、オオカミ(毛皮)、ニホンジカ(毛皮)、毛皮のベスト・帽子・マフラー(キツネ、タヌキ、テン、ミンク)	12.14~2.28
17	歴史	ミニプラザ	トピック展	新型コロナウイルス感染症関連展示 【第1期】	アマビエ像、県外ナンバー車用ステッカーほか	10.13~ 12.27
18	歴史	ミニプラザ	トピック展	新型コロナウイルス感染症関連展示 【第2期】	年賀状、ポチ袋、凧絵ほか	1.5~3.28
19	歴史	いわて文化史展示室 (歴史)	展示替え	錦絵	前太平記宗任以下降人出る図、源義経奥州下向平泉館にて秀衡の親子に對面の図	5.28~
20	歴史	総合展示室(歴史・ 古美術)	展示替え	屏風	龍図屏風	6.6~4.6
21	歴史	いわて文化史展示室 (歴史)	展示替え	引札	エビスと鯛と郵便物早見表、陸中山目町菊地商店	8.23~
22	歴史	総合展示室(歴史)	展示替え	仏像	重要文化財 銅造観音菩薩立像	9.18~9.27 3.17~3.23
23	歴史	総合展示室(歴史)	展示替え	太平洋戦争	千人針、慰問袋、軍隊手帳ほか	10.4~12.27
24	歴史	総合展示室(歴史・ 古美術)	展示替え	鏡台	扇面蒔絵鏡台、薫絵蒔絵鏡台、松竹鶴亀蒔絵鏡台	11.6~
25	歴史	ミニプラザ	特別展示	ゴジラ	南部鉄器ゴジラ、南部鉄器恐竜	12.19~1.17
26	考古	いわて文化史展示室 (考古)	展示替え	屋形遺跡が国史跡に!	縄文土器、円盤状土製品、矢じり、貝殻、骨ペラ	1.9~5.9
27	考古	ミニプラザ	トピック展	洋野町の復興調査の成果	縄文時代前期初頭土器、玦状耳飾り、線刻石製品	3.16~5.9
28	考古	ミニプラザ	トピック展	環状列石のころの岩手	縄文土器、土偶、腕輪形土製品、鐙形土製品	3.16~5.9
29	考古	いわて文化史展示室 (考古)	展示替え	縄文時代のアクセサリ ー 貝輪	小田島禄郎コレクション	5.19~
30	地質	総合展示室(地質) ・いわて自然史 展示室	展示替え	岩石・化石	南極片麻岩・三葉虫・昆虫・節足動物・アンモナイト・ベレムナイト・オウムガイ・ヒオリテス・腕足動物・ウミユリ・巻貝	4.23~
31	地質	総合展示室(地質)	展示替え	化石	被子植物・アンモナイト・昆虫・魚類・巻貝・は虫類・有孔虫・サンゴ	4.28~
32	地質	グランドホール	トピック展	チバニアン	パネル展示	7.18~8.30
33	地質	グランドホール	展示替え	剥ぎ取り標本	篠崎地震断層	8.28~4.15
34	地質	いわて自然史展示室	展示替え	化石	恐竜の糞化石・ほ乳類の糞化石	9.11~
35	地質	ミニプラザ	トピック展	新区界トンネルの石	チャート・蛇紋岩・砂岩・粘板岩・緑色岩	12.5~5.9
36	地質	総合展示室(地質)	展示替え	化石	二枚貝・被子植物・魚類	2.18~
37	地質	総合展示室(地質)	展示替え	化石	アンモナイト・二枚貝	3.16~



## ウ. 特別展示の概要

既述のとおり、令和2年6月から予定されていた「40周年記念展」は中止となり、その期間は5月6日に閉幕予定であった地質部門テーマ展「化石の水族館」を延長開催した。

表5(1)-2 令和2年度の特別展示

種別	名称	会期
テーマ展	「化石の水族館」(延長開催)	令和2年3月14日(土)～令和2年8月23日(日)
特別展	「40周年記念展」(中止)	令和2年6月
テーマ展	「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」	令和2年10月3日(土)～11月23日(月・祝)
テーマ展	「岩手の政治物語-幕末・明治・大正」	令和2年12月19日(土)～令和3年2月14日(日)
テーマ展	「縄文いわての環状列石」	令和3年3月23日(火)～令和3年5月9日(日)

### (ア) テーマ展「化石の水族館」

地質時代の海や湖にいた生物を中心とした化石の展示を行った。展示にあたっては、化石となった生物たちが生きていた時にどのような生活をしていたか(古生態)をわかりやすく伝えることを目的とし、体の化石だけでなく、生物の這い跡や巣穴などの生活の痕跡が化石となったもの(生痕化石)も展示した。また、奥羽山脈を中心に岩手県の魚類化石の研究をした佐藤二郎氏標本の展示を併せて行った。

会期：令和2年3月14日(土)～8月23日(日) 164日間※

(※4月25日(土)～5月6日(水)の臨時閉館期間を含めた日数)

会場：特別展示室

会期中の来場者数：10,543人

#### [展示内容]

- 1章 原生代とカンブリア紀の水槽
  - A 海の中の楽園(先カンブリア時代エディアカラ紀)
  - B 革命の時代(カンブリア紀)
- 2章 オルドビス紀とシルル紀の水槽
  - C 浅瀬の社会(オルドビス紀)
  - D 熱帯の海(シルル紀)
- 3章 デボン紀の水槽
  - E 魚類たちの戦国時代(デボン紀)
- 4章 石炭紀・ペルム紀の水槽
  - F 超大陸と海の中(石炭紀・ペルム紀)
  - G 超大陸の水の中(石炭紀・ペルム紀)
- 5章 三畳紀・ジュラ紀の水槽
  - H 再生と繁栄の海(三畳紀・ジュラ紀)
- 6章 白亜紀大水槽
  - I は虫類の泳ぐ海(白亜紀)
- 7章 新第三紀の水槽
  - J 奥羽山脈の深海
- 8章 生痕化石の世界
  - M 化石から太古の動物の生活を読む 絵巻ケース

その他 体験型展示

化石のタッチ水槽（ハンズオンコーナー）※

生痕化石を作ってみよう！※

三葉虫を走らせよう！※

塗り絵シールコーナー

写真撮影コーナー

（※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、会期中に撤収）

#### [関連事業]

特別講演（日曜講座） **新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止**

令和2年3月28日（土）13：30～15：00 講堂

講師：宮田真也氏（城西大学水田記念博物館学芸員）

演題：恐竜好き少年が魚類化石研究者になりました

令和2年4月26日（日）13：30～15：00 教室

講師：望月貴史（当館学芸員）

演題：生命史をひも解く—ジュラ紀—

展示解説会

令和2年3月15日（日）・3月29日（日）・4月12日（日）・5月3日（日）・7月25日（土）・8月8日（土）・8月22日（土）

各回とも14：30～15：30 特別展示室

4月12日（日）及び5月3日（日）は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止となった。

以降の日程は人数制限（20名）を定めた上で事前予約制にして実施した。

#### [印刷物]

ポスター B2、カラー印刷400部

リーフレット A4、両面（表：カラー印刷、裏：2色刷）50,000部

図録 A4、カラー印刷、32ページ、107部（配布用）、93部（販売用、売価1,320円）

#### （イ）開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」

当館の開館40周年を記念する特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」を、令和2年6月6日（土）～8月23日（日）の会期で開催予定であったが、春からの新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大と、それに伴う緊急事態宣言の発出等の影響によって開催準備が困難となり、やむを得ず中止とした。

同特別展の展示解説図録として準備していた原稿は、内容の一部を変更した上で、開館40周年記念普及解説書「みる！しる！わかる！三陸再発見」として、令和3年3月23日に刊行した（A4版カラー128ページ、500部）。

#### （ウ）テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」

人形芝居は、江戸・明治期～昭和戦後まで当たり前のように岩手の各地で興行され、昭和30年代を境に廃れていき、現在は数団体を除いてその存在をも忘れ去られようとしている。これまで、県全体の操り人形（人形芝居）に焦点をあてた展覧会はなく、当館所蔵の淡路人形や昭和期の操り人形をはじめとして、県内に現存する人形を一堂に会し、大衆娯楽の一時代を築いた「操り人形（人形芝居）」について紹介した。

会期：令和2年10月3日（土）～11月23日（月・祝） 実開催日数45日

会場：特別展示室

会期中の入館者数：4,546名

〔展示内容〕

- 第1章 操り人形とは
- 第2章 操り人形の変遷
- 第3章 鈴江家の淡路人形
- 第4章 地域・全国を舞台とした操り人形（人形芝居）
- 第5章 今に残る人形芝居
- 第6章 終わりに一語りかける人形たち

〔関連事業〕

文化講演会

令和2年11月3日（火・祝） 13:30～15:00 講堂（先着50名）

演題：「私が出会った淡路人形と娘義太夫」

講師：山本玲子氏（啄木ソムリエ・岩手県文化財保護審議会委員）

特別公演会

令和2年11月8日（日） 13:30～15:00 講堂（往復ハガキによる事前予約50名）

演目：「三番叟」 「絵本太功記・尼ヶ崎閑居の場」 「景色」

講師：倉沢人形歌舞伎保存会

※日曜講座を兼ねる

※当日、鑑賞として映像室20席、体験学習室30席を用意

県博日曜講座

令和2年10月25日（日） 13:30～15:00 講堂

演題：「個性豊かな岩手の操り人形」

講師：木戸口俊子（展覧会担当学芸員）

展示解説会（先着15名程度）

①令和2年10月3日（土） ② 10月11日（日） ③ 11月14日（土）

各回14:30～15:30 特別展示室

〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷500部

リーフレット A4判、両面カラー11,000部

ガイドブック A4判、カラー印刷、12ページ、1,000部（販売用700部 定価100円）

（エ）テーマ展「いわての政治物語―幕末・明治・大正―」

多くの優れた政治家を輩出してきた岩手県の高い政治的土壌を探るために、岩手にかかわる「三閉伊一揆」、「戊辰戦争」、「自由民権運動」、「原敬内閣」という大きな四つの政治的事象を追うことで紹介した。また、2020年は大日本帝国憲法が施行されて130年の節目の年にあたることから、憲法および選挙制度の変遷がわかる展示を行った。

視角でも楽しんでもらえるように、「三閉伊一揆」では切り絵を、「戊辰戦争」では錦絵を、「自由民権運動」では風刺画・戯画を、「原敬内閣」では写真を多く展示した。

岩手にかかわる先人たちは「自分たちの生活をよりよくしたい」と考え、政治に参加する権利獲得を含めた社会変革の要求を行ってきた。時にそれは、「一揆」となり、「戦争」となり、「運動」という形をとった。今の日本では、18歳になれば、誰もが選挙権を持ち、自分の意見を政治に反映させることができるが、この権利は、当たり前の権利であると同時に、長い年月をかけて、多くの人々が戦って勝ち取ってきた権利であることを伝えることを目的とした。

会期：令和2年12月19日（土）～令和3年2月14日（日） 45日間  
会場：特別展示室（+いわて文化史展示室一部「利剛公と明子姫」）  
会期中の来場者数：2,687人

[展示内容]

プロローグ 内閣総理大臣出身都道府県別・岩手出身の内閣総理大臣  
第一章 三閑伊一揆 ― 民主の芽生え ―  
第二章 戊辰戦争 ― 奥羽越列藩同盟として ―  
第三章 自由民権運動 ― 東北自由主義の重鎮なり ―  
第四章 原敬内閣 ― 平民宰相の誕生 宝積の精神 ―  
第五章 憲法のいま・むかし― 大日本帝国憲法施行130年 ―  
(まとめ) 政治に参加すること

[関連事業]

展示解説会（いずれも先着15名程度）3回

12月26日（土）：参加者9名、1月16日（土）：同10名、1月31日（土）：同13名  
計32名

日曜講座（いずれも先着50名）2回

12月27日（日）講師：武田（「いわての政治物語」） 参加者57名  
2月14日（日）講師：岡安儀之氏（「郵便報知新聞と原敬」） 参加者49名  
計106名

子ども向けワークショップ「いわての政治 むり絵たいけん！」（事前予約10名）2回

1月11日（土）：参加者7名、2月13日（土）：参加者6名 計11名

大人向け講座「幕末の文書読み」（事前予約10名）2回

1月23日（土）参加者：6名、2月6日（土）参加者：5名 計11名

[印刷物]

ポスター B2、カラー印刷500部

リーフレット A4、両面（表：カラー印刷、裏：2色刷）11,000部

**(オ) テーマ展「縄文いわての<sup>ストーンサークル</sup>環状列石」**

縄文時代後期初頭から前葉（今から3,700～4,000年前）にかけて、北海道・北東北につくられた環状列石。太平洋岸には存在しないとされていた環状列石が、ここ岩手の沿岸部にも確認された。平成26・27年度の2カ年にわたり実施された洋野町「西平内I遺跡」の発掘調査と、その後28年度に洋野町教育委員会が行ったボーリング調査の成果を交えながら、岩手の環状列石、配石遺構にスポットをあてた展示を行い、ストーンサークルの謎と今に引き継がれる精神世界・精神文化について考える機会とした。

会期：令和3年3月23日（火）～5月9日（日） 42日間  
会場：特別展示室

[展示内容]

プロローグ 環状列石とは

第1章 縄文いわての環状列石

- ・太平洋岸に唯一 ～西平内I遺跡～
- ・西に谷地山を望む ～湯舟沢環状列石～

・上下が接合した土偶 ～松尾釜石環状列石～

第2章 石にまつわる岩手の縄文遺跡

第3章 石に込められた願いー近年の調査成果と館蔵品からー  
エピソード 今に伝わる石の文化

〔関連事業〕

県博日曜講座（計2回）

令和3年4月11日（日） 13:30～15:00 講堂

演題：「西平内I遺跡の調査でわかったこと」

講師：千田政博氏（洋野町教育委員会）・濱田宏（展覧会担当学芸員）

令和3年4月25日（日） 13:30～15:00 講堂

演題：「北東北のストーンサークル」

講師：盛岡大学文学部名誉教授 熊谷常正氏

展示解説会（計2回） 各回14:30～15:30 特別展示室

①令和3年4月17日（土）②5月2日（日）14:30～15:30

環状列石模擬体験（ストーンサークル・ゲーム）

令和3年4月18日（日）13:30～16:00

〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷500部

リーフレット A4判、両面カラー印刷10,000部



## (2) 教育普及活動

令和2年度は、前年度末から始まったコロナ感染症対応に追われながら、教育普及活動として22件の事業を行った。

講座・観察会としては、県博日曜講座(9月より再開)、自然観察会2回、地質観察会1回、子供向け事業では、「博物館まつり」の規模を縮小して開催した。6月中旬以降は、毎週日曜日に「たいけん教室～みんなのためそう～」の定員を減じて行い、第2・第3土曜・日曜日には「チャレンジ!はくぶつかん」をこちらは通常どおり実施した。さらに、毎月第1土曜日には講堂にて「ミュージアムシアター」で様々なプログラムを上映し、ご年配の方から子供たちまで、幅広い年代の皆さんにご利用いただいた。

この他、夏・冬・春休み期間中の特別企画として「ワードパズル」と「いきものクイズ」を実施した。春休みの開催は初めてであったが、多くの方々にご参加いただいた。また、今年度も人気の「冬休みワクワク!ワークショップ」を年明けに規模を縮小して開催した。

学習支援や社会教育事業としては、例年よりも件数は減ったものの、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用や教材貸し出し、学校への出前事業に対応した。

### ア. 開催事業

#### (ア) 展示付帯事業

■学芸員による展示解説会・講演会(展覧会/定時)

延べ93名

表5(2)-1 学芸員による展示解説会・講演会参加者数等

	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
1	7月25日	土	望月貴史	テーマ展「化石の水族館」展示解説会	11
2	8月8日	土	望月貴史	テーマ展「化石の水族館」展示解説会	10
3	8月22日	土	望月貴史	テーマ展「化石の水族館」展示解説会	8
4	10月10日	土	木戸口俊子	テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」展示解説会	8
5	10月11日	日	木戸口俊子	テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」展示解説会	13
6	11月14日	土	木戸口俊子	テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」展示解説会	11
7	12月26日	土	武田麻紀子	テーマ展「いわての政治物語-幕末・明治・大正-」展示解説会	9
8	1月16日	土	武田麻紀子	テーマ展「いわての政治物語-幕末・明治・大正-」展示解説会	10
9	1月30日	土	武田麻紀子	テーマ展「いわての政治物語-幕末・明治・大正-」展示解説会	13

■いわての政治物語関連事業「ぬり絵たいけん」・「幕末の文書読み」〔武田麻紀子〕担当 延べ24名

表5(2)-2 いわての政治物語関連事業「ぬり絵たいけん」・「幕末の文書読み」参加者数等

	期日		演題・イベント名ほか	参加人数
1	1月11日	月・祝	「岩手の政治ぬりえたいけん1」	7
2	1月23日	土	「幕末の文書読み1」	6
3	2月6日	土	「岩手の政治ぬりえたいけん2」	6

	期日		演題・イベント名ほか	参加人数
4	2月23日	土	「幕末の文書読み2」	5

■解説員による定時解説

コロナ感染症対策により中止とした

■解説員による依頼解説（随時／常設） 延べ554人

表5(2)-3 解説員による依頼解説参加者数等

事業名	実施日		参加者数	総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室	
				地質	考古	歴史	民俗	現勢・生物	考古	歴史	民俗	地質	生物
解説員による依頼解説	4月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	5月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	10	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	6月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	7月	学校等	149	3	4	4	3	3	0	0	0	0	0
		一般	42	7	5	5	7	6	1	1	2	1	1
	8月	学校等	16	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
		一般	13	4	5	4	4	4	2	2	2	1	1
	9月	学校等	104	3	3	3	2	2	1	1	3	1	1
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10月	学校等	73	4	1	1	1	2	0	0	0	0	0
		一般	4	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0
	11月	学校等	34	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0
		一般	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	12月	学校等	28	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1月	学校等	16	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2月	学校等	10	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3月	学校等	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	45	4	3	3	4	3	0	0	2	0	0
		計	554	34	30	28	31	27	4	4	11	3	3

■チャレンジ!はくぶつかん(全54回) ※学芸第三課〔高橋雅雄〕担当 延べ832名

表5(2)-4 チャレンジ!はくぶつかん参加者数等

	期日		当番	テーマ	参加者数	月別参加者総数	備考
1	4月11日	土	作成：金子昭彦 当番：高橋雅雄、金子昭彦	魚	6	43	大人5
2	4月12日	日			14		大人10
3	4月18日	土			11		大人5
4	4月19日	日			12		大人10
5	5月9日	土	作成：高橋雅雄 当番：高橋雅雄、濱田宏	植物	9	47	大人5
6	5月10日	日			17		大人14
7	5月16日	土			9		大人8
8	5月17日	日			12		大人11
9	6月13日	土	作成：濱田宏 当番：濱田宏、菅野誠喜	三陸	7	49	大人5
10	6月14日	日			18		大人15
11	6月20日	土			9		大人7
12	6月21日	日			15		大人17
13	7月11日	土	作成：菅野誠喜 当番：武田麻紀子、菅野誠喜	気仙	11	55	大人8
14	7月12日	日			24		大人20
15	7月18日	土			9		大人6
16	7月19日	日			11		大人8
17	8月8日	土	作成：武田麻紀子 当番：武田麻紀子、昆浩之	八・八・はち	16	80	大人16
18	8月9日	日			27		大人27
19	8月10日	月祝			15		大人13
20	8月15日	土			7		大人6
21	8月16日	日			15		大人14
22	9月12日	土	作成：近藤良子 当番：近藤良子、菅野誠喜	人	12	83	大人8
23	9月13日	日			13		大人15
24	9月19日	土			4		大人2
25	9月20日	日			18		大人17
26	9月21日	月祝			15		大人14
27	9月22日	火祝			21		大人20
28	10月10日	土	作成：渡辺修二 当番：渡辺修二、昆浩之	形	5	57	大人5
29	10月11日	日			30		大人29
30	10月17日	土			10		大人9
31	10月18日	日			12		大人9
32	11月14日	土	作成：山岸千人 当番：山岸千人、米田寛	デザイン	15	111	大人15
33	11月15日	日			20		大人19
34	11月21日	土			25		大人21
35	11月22日	日			27		大人21
36	11月23日	月祝			24		大人25

37	12月12日	土	作成：米田 寛 当番：金子昭彦、米田 寛	戦う・競う	10	60	大人 9
38	12月13日	日			19		大人 12
39	12月19日	土			3		大人 3
40	12月20日	日			28		大人 22
41	1月9日	土	作成：望月貴史 当番：望月貴史、金子昭彦	変わる	15	87	大人 8
42	1月10日	日			21		大人 25
43	1月11日	月祝			10		大人 10
44	1月16日	土			13		大人 8
45	1月17日	日			28		大人 25
46	2月13日	土	作成：昆浩之 当番：昆浩之、武田麻紀子	つなぐ	9	82	大人 6
47	2月14日	日			31		大人 26
48	2月20日	土			17		大人 12
49	2月21日	日			25		大人 17
50	3月13日	土	作成：目時和哉 当番：目時和哉、高橋雅雄	わ	23	78	大人 22
51	3月14日	日			20		大人 18
52	3月20日	土			11		大人 16
53	3月21日	日			24		大人 19

※当館学芸員が毎月作成するワークシートを配布。

※今年度は15名の最優秀チャレンジャー（全12回に参加した皆勤賞、9回目1名、4回目1名、3回目5名、2回目8名）が誕生した。

■「ワードパズル」「恐竜・化石クイズ」「いわての生きものクイズ」

※学芸第三課〔武田麻紀子〕担当 延べ1282人

表5(2)-5 「ワードパズル」「恐竜・化石クイズ」「いわての生きものクイズ」参加者数等

	期日	内容	参加者数	備考
1	7月23日（木・祝）～8月17日（月）	「ワードパズル」「恐竜・化石クイズ」	1000	夏休みスペシャル
2	12月19日（土）～1月11日（月・祝）	「ワードパズル」「いわての生きものクイズ」	111	冬休みスペシャル
3	3月20日（土）～4月9日（金）	「ワードパズル」「いわての生きものクイズ」	171	春休みスペシャル

※当館学芸員作成のワードパズル・クイズの配布

■ナイトミュージアム～くらやみの中から語りかける資料を探る～

コロナ感染症対策により中止とした

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」 ※学芸第三課〔武田麻紀子・解説員〕担当

表5(2)-6 展示資料解説「けんぱくものしりシート」テーマ等

	発行日		テーマ	シート作成者（当館解説員）
1	4月4日	土	畳	藤嶋マミ
2	5月2日	土	アイナメ	川崎智子

3	6月6日	土	ケラ	草島千香子
4	7月4日	土	地質年代	三河綾乃
5	8月1日	土	鳥形注口土器	乙部佳寿代
6	9月12日	土	胆沢城	畠香奈子
7	10月3日	土	大漁着	石川依子
8	11月7日	土	ハマナス	伊藤敦子
9	12月5日	土	ホームスパン	中村紫保
10	1月9日	土	ムカシオオホホジロザメ	那須優香子
11	2月6日	土	縄文人と動物	田村優子
12	3月6日	土	英和对訳袖珍辞書	齋藤菜穂美

※当館解説員が毎月作成している展示資料解説カードを配布するとともに、当館HPに掲載。

### (イ) 教育普及事業

■文化講演会 ※民俗部門〔木戸口俊子〕担当 延べ55人

表5(2)-7 文化講演会参加者数等

	期日		講師	演題	参加者
1	11月3日	火・祝	山本玲子氏	「私が出会った淡路人形と娘義太夫」	55

■北上川水源地域セミナー [1回] ※学芸第二課〔木戸口俊子〕担当 延べ21人

※北上川ダム統合管理事務所共催

表5(2)-8 北上川水源地域セミナー参加者数等

	期日		講師	演題	参加者
1	12月20日	日	渡辺修二・高橋雅雄	困った鳥と守るべき貝ーカワウとカワシンジユガイー	21

※【平成25年度～】北上川ダム統合管理事務所並びに北上川「流域圏」フォーラム実行委員会の共催によるセミナー。当館は会場を提供し当日の運営補助を担当した。当館職員が部門持ち回りで講師を務める。(第8回：生物部門)

■岩手県立博物館友の会 話のサロン ※学芸第二課〔木戸口俊子〕担当 延べ107人

表5(2)-9 話のサロン参加者数等

	期日		講師	演題	参加者数	備考
1	9月12日	土	阿部 丕顕 氏 (岩手山地区パークボランティア連絡協議会会員)	美しい三陸海岸の自然(写真で見る震災前とあと)	41	
2	12月13日	日	小山内 透	近世以前の岩手の製鉄 築炉技術の進化	23	日曜講座を兼ねる
3	2月20日	土	土井 宣夫 氏(岩手大学客員教授)	岩手山の江戸時代の噴火ー古文書と火山灰から復元するー	43	

■ 県博日曜講座 [全 13 回]

※学芸第三課 [濱田 宏] 担当 延べ 501 人

表 5 (2)-10 県博日曜講座参加者数等

	期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1	9月13日	日	高橋雅雄	オオセッカと東日本大震災	34	
2	9月27日	日	近藤良子	江戸時代いわてにやってきたクジラのはなし	24	
3	10月25日	日	木戸口俊子	個性豊かな岩手の操り人形	30	
4	11月8日	日	倉沢人形歌舞伎保存会	【特別講演】 倉沢人形歌舞伎	91	
5	11月22日	日	山岸千人	「チバニアン」について	38	
6	12月13日	日	小山内透	近世以前の岩手の製鉄―築炉技術の進化―	23	
7	12月27日	日	武田麻紀子	いわての政治物語―幕末・明治・大正―	57	
8	1月10日	日	渡辺修二	岩手のトンボ2	36	
9	1月24日	日	鈴木まほろ	高山の生態系とニホンジカ	46	
10	2月14日	日	岡安儀人(東北大学)	郵便報知新聞と原敬	49	
11	2月28日	日	中止		—	
12	3月14日	日	米田寛	南部岩手の天然染料～藍・紫根・茜を中心に～	36	
13	3月28日	日	高橋廣至(当館館長)	雑学のススメ	37	

※当館学芸員もしくは外部講師(敬称略)による講演。令和2年度は、コロナ感染症対策により9月より開始した。

■ 県博バックヤードツアー

コロナ感染症対策により中止とした

■ 古文書入門講座 [全 6 回]

コロナ感染症対策により中止とした

■ ミュージアムコンサート

コロナ感染症対策により中止とした

■ 考古学セミナー

規定の人数に満たなかったために中止

■ 自然観察会 [全 2 回]

※生物部門 [鈴木まほろ・渡辺修二] 担当 延べ 48 人

表 5 (2)-11 自然観察会参加者数等

	期日		講師等	テーマ	参加者数	備考
1	7月5日	日	千葉武勝氏・渡辺修二	第79回自然観察会：滝沢市相ノ沢キャンプ場	17	
2	9月20日	日	鈴木まほろ・渡辺修二・高橋雅雄	第80回自然観察会：大船渡市	31	大船渡市立博物館と共催

■地質観察会 [全1回]

※地質部門〔山岸千人・望月貴史〕担当 延べ20人

表5(2)-12 地質観察会参加者数等

	期日		講師等	テーマ	参加者数	備考
1		日		第79回地質観察会：(南三陸町)	-	中止
2	10月25日	日	望月貴史	第80回地質観察会：釜石に見られる古生界の岩石と化石(釜石市)	20	

■博物館館園実習 [全7日]

※学芸第三課〔金子昭彦〕担当 受講者10人

表5(2)-13 博物館館園実習受講者数等

	期日		講師	演題	受講者数	備考
1	8月20日	木	高橋廣至	実習にあたって	9	
2			濱田宏	岩手県立博物館概要説明		
3			実習担当	施設見学		
4			小山内透	講義「地方博物館の使命と役割」		
5			花山智行	博物館管理業務の実務		
6	8月21日	金	望月貴史	展示の実務(企画展を例に・地質)	10	
7			鈴木まほろ	博物館資料管理の実務		
8			丸山浩治	環境保全・資料保存の実務(文化財科学)		
9			金子昭彦他	教育普及・事業広報の実務		
10			丸山浩治	環境保全・資料保存の実務(文化財科学)		
11			解説員	展示解説の実務「解説会」		
12		丸山浩治	環境保全・資料保存の実務(文化財科学)			
13	8月22日	土	山岸千人	事業広報の実務(概説)	10	
14			菅野誠喜	展示の実務(概説・実習)		
15			菅野誠喜	展示の実務(実習=展示替え)		
16			米田寛	展示・管理業務の実務(ケース・演示具組立、メンテナンス)		
17	8月23日	日	鈴木まほろ 渡辺修二 高橋雅雄	展示・資料整理の実務(生物)	10	
18			金子昭彦	教育普及の実務(事業参観・実習)		
19			鈴木まほろ 渡辺修二 高橋雅雄	展示・資料整理の実務(生物)		
20	8月25日	火	菅野誠喜 武田麻紀子 昆浩之 目時和哉	展示・資料整理の実務(歴史)	10	
21			木戸口俊子 近藤良子 米田寛	展示・資料整理の実務(民俗)		

	期日		講師	演題	受講者数	備考
22	8月26日	水	金子昭彦	展示・資料整理の実務（考古）	10	
23			山岸千人 望月貴史	展示・資料整理の実務（地質）		
24	8月27日	木	金子昭彦	展示・資料整理の実務（考古）	10	
25			金子昭彦	展示・資料整理の実務（考古）		
26			菅野誠喜 武田麻紀子 昆浩之 目時和哉	展示・資料整理の実務（歴史）		
27			濱田宏	実習終了にあたって		
28			実習担当	実習ノートのまとめ		

※今年度は、長岡造形大学、石巻専修大学、上智大学、大東文化大学、岩手大学、盛岡大学、山形県立米沢女子短期大学から、合計10名を受け入れた。

■文化財等取扱講習会

学芸第二課〔目時和哉・木戸口俊子〕担当 参加19名

表5(2)-14 文化財等取扱講習会プログラム等

月日	時間		A班	B班
1月28日 (木)	10:00	20分	受付 〔講堂前〕 9:45～10:00	
			開講式・オリエンテーション 〔講堂〕 10:00～	
	10:25	50分	【自然史資料取扱基礎①】 地質 〔講堂〕 10:25～	【自然史資料取扱基礎①】 生物 〔第二・第五収蔵庫／教室〕 10:25～
	11:15		休憩 15分	
	11:30	30分	【資料及び環境管理】 文化財科学 〔講堂〕 11:30～	
	12:00	60分	昼食 12:00-13:00	
	13:00	50分	【資料及び環境管理】 文化財科学 〔館内巡検〕 13:00～	【資料及び環境管理】 文化財科学 〔館内巡検〕 13:00～
	13:50		休憩 10分	
	14:00	50分	【自然史資料取扱基礎②】 生物	【自然史資料取扱基礎②】 地質



月日	時間		A班	B班
	14:50		[第二・第五収蔵庫/教室] 14:00～	[講堂] 14:00～
			休憩 10分	
	15:00 60分 16:00		【人文系資料取扱基礎①】 古美術 [実技室・第一収蔵庫] 15:00～	【人文系資料取扱基礎①】 考古 [講堂] 15:00～
1月29日 (金)	9:55		受付	
			[講堂前] 9:40～9:55	
		【連絡】 [講堂]		
	10:00 60分		【人文系資料取扱基礎②】 歴史 [実技室・第一収蔵庫] 10:00～	【人文系資料取扱基礎②】 民俗 [講堂・第三収蔵庫] 10:00～
	11:00 60分 12:00		【人文系資料取扱基礎③】 考古 [講堂] 11:00～	【人文系資料取扱基礎③】 古美術 [実技室・第一収蔵庫] 11:00～
	60分		昼食 12:00-13:00	
	13:00 60分 14:00		【人文系資料取扱基礎④】 民俗 [講堂・第三収蔵庫] 13:00～	【人文系資料取扱基礎④】 歴史 [実技室・第一収蔵庫] 13:00～
		休憩 15分		
	14:15 50分 15:05		【意見交換】 [講堂] 14:15～	
		閉講式 [講堂] 15:10～15:20		

■教員のための博物館の日

※学芸第一課〔渡辺修二〕担当 参加 38人

表5(2)-15 教員のための博物館の日参加者数等

期日	講師	内容	参加者数	備考
12月27日	望月貴史 渡辺修二 近藤良子	地質分野：アンモナイトのストラップづくり 生物分野：骨から分かる生物の進化 民俗分野：授業に役立つ「むかしの暮らし」	38	

	武田麻紀子 丸山浩治	歴史分野：「いわての政治物語-幕末・明治・大正-」 (日曜講座) 文化財科学分野：被災文化財の修復活動-紙資料を中心に-		
--	---------------	--	--	--

※学校との連携を深める目的で、平成28年度から実施している。

■ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館

コロナ感染症対策により中止とした

■第11回岩手県立博物館まつり

※学芸第三課〔米田寛・高橋雅雄〕担当

10月11日(日)に予定していた第11回岩手県立博物館まつりは、コロナ感染症対策のため中止とした。なお、代替イベントとして11月14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)・23日(月・祝)の合計5日間、「屋外チャレンジ!はくぶつかん」を開催した。参加者は合計159名であった。

■ゴールデンウィークスペシャルイベント

※総務課担当

5月2日(土)に予定していたゴールデンウィークスペシャルイベント「ふれあい動物園」および5月3日(日)に予定していた「オリジナルこいのぼりをつくろう!」は、コロナ感染症対策のため中止とした。

■たいけん教室～みんなでためそう～〔計37回〕※学芸第三課〔解説員〕 延べ337人

表5(2)-16 たいけん教室参加者数等

	期日		講師	テーマ	参加者数	内訳
1	4月12日	日	解説員	スライムであそぼう	中止	
2	4月19日	日	解説員	猫絵馬づくり	中止	
3	4月26日	日	解説員	こいのぼりづくり	中止	
4	5月3日	日	解説員	アンモナイトの消しゴムづくり	中止	
5	5月10日	日	解説員	砂絵	中止	
6	5月17日	日	解説員	まが玉のアクセサリ	中止	
7	5月24日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう	中止	
8	5月31日	日	解説員	草木のそめもの	中止	
9	6月7日	日	解説員	チャグチャグ馬コづくり	中止	
10	6月14日	日	解説員	ばねのキツツキおもちゃ	中止	
11	6月21日	日	解説員	手づくり万華鏡	9	子ども5名
12	6月28日	日	解説員	化石のレプリカ	9	子ども5名
13	7月5日	日	解説員	ウォータードームづくり	9	子ども5名
14	7月12日	日	解説員	ミニさんさだいこ①	10	子ども5名
15	7月19日	日	解説員	ミニさんさだいこ②	8	子ども5名
16	7月26日	日	解説員	ミニさんさだいこ③	10	子ども5名
17	7月26日	日	解説員	ミニさんさだいこ④	10	子ども5名
18	8月2日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ①	9	子ども5名
19	8月2日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ②	9	子ども4名
20	8月9日	日	解説員	天然石のフォトフレーム	10	子ども5名
21	8月9日	日	解説員	天然石のフォトフレーム	10	子ども5名

	期日		講師	テーマ	参加者数	内訳
22	8月16日	日	解説員	化石のレプリカ	10	子ども5名
23	8月23日	日	解説員	3Dメガネで万華鏡	9	子ども5名
24	8月30日	日	解説員	スライムであそぼう	9	子ども5名
25	10月4日	日	解説員	手づくり万華鏡	10	子ども5名
26	10月18日	日	解説員	カラフルクモづくり	6	子ども4名
27	10月25日	日	解説員	紙コップのあやつり人形	7	子ども4名
28	11月1日	日	解説員	スライムであそぼう	10	子ども5名
29	11月8日	日	解説員	化石のレプリカ	10	子ども5名
30	11月15日	日	解説員	土器づくり	7	子ども4名
31	11月22日	日	解説員	松ぼつくりのXmas ツリー	10	子ども5名
32	11月29日	日	解説員	砂絵	9	子ども5名
33	12月6日	日	解説員	松ぼつくりのXmas ツリー	10	子ども5名
34	12月13日	日	解説員	まゆで干支づくり(丑)	10	子ども5名
35	12月20日	日	解説員	かんたん門松	10	子ども5名
36	12月27日	日	解説員	まゆで干支づくり(丑)	10	子ども5名
37	1月10日	日	解説員	木のこまの絵つけ	9	子ども5名
38	1月17日	日	解説員	たこづくり	9	子ども5名
39	1月24日	日	解説員	お絵かきはんこ	10	子ども5名
40	1月31日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう	4	子ども2名
41	2月7日	日	解説員	化石のレプリカ	10	子ども5名
42	2月14日	日	解説員	おひなさまづくり	8	子ども4名
43	2月21日	日	解説員	スライムであそぼう	9	子ども5名
44	2月28日	日	解説員	土偶づくり	10	子ども5名
45	3月14日	日	解説員	まが玉のアクセサリー	10	子ども5名
46	3月21日	日	解説員	天然石のフォトフレーム	10	子ども5名
47	3月28日	日	解説員	手づくり万華鏡	9	子ども5名

※【昭和56年度～】当館解説員による主に小学生対象のワークショップである。定員はプログラムごとに20～30名の範囲で設定してきたが、令和2年度はコロナ感染症対策として定員を子ども5名とした。なお、6月中旬まで中止の措置をとっている。

■冬のワクワク！ワークショップ

※学芸第三課〔高橋雅雄〕担当 延べ25人

表5(2)-17 冬のワクワク！ワークショップ参加者数等

期日	講師	プログラム	参加者数	備考
1月9日	土	望月貴史・解説員	化石のレプリカづくり	25

※【平成24年度～】幼児～小学生向けワークショップ。コロナ対策で時間ごとに定員を設定した。

■民家活用事業 民家 de 写真展

※学芸第三課〔濱田宏〕担当 述べ 2471 人

表 5 (2)-18 民家 de 写真展参加者数等

	期日	内容	会場	参加者数
1	9月11日(金)～ 9月30日(水)	生物部門 昆虫・陸上動物・海洋生物	旧佐々木家住宅	349
2	10月3日(土)～ 11月23日(月・祝)	民俗部門 森口多里写真コレクション	旧佐々木家住宅	1232
3	12月1日(火)～2 月28日(日)	歴史部門 岩手のダム・絵画でたどる19世紀岩 手の風景	旧佐々木家住宅	433
4	3月2日(火)～3月 31日(水)	考古部門 環状列石と山	旧佐々木家住宅	457

■冬の写生会

※総務課〔小野寺聡美〕担当 28 作品

表 5 (2)-19 冬の写生会参加者数等

	期日	概要	参加者数	備考
1	12月12日(土)～ 1月11日(月・祝)	展示資料やグランドホールからの岩手山を描く	28	
2	1月16日(土)～ 2月7日(日)	応募作品の展示	—	

※【平成18年度～】館内からの景色やマメンキサウルス等の展示資料を描いた作品を館内に掲示。

■ミュージアムシアター [全7回]

※学芸第三課〔昆浩之〕担当 延べ91人

表 5 (2)-20 ミュージアムシアター参加者数等

	期日		運営	内容	参加者数	備考
1	7月4日	土	映写：中央地域視聴覚ラ イブラリー映写ボランテ ィア「シネマ友の会」	夏休み直前アニメスペシャル ピー ターパン	12	大人6 小人6
2	8月1日	土	映写：中央地域視聴覚ラ イブラリー映写ボランテ ィア「シネマ友の会」	夏休み映画 ぞくぞく村のおバケた ち③、王さまでかけましょう	31	大人10 小人21
3	10月3日	土	映写：中央地域視聴覚ラ イブラリーボランティア 「シネマ友の会」	人生いろどり	5	大人5
4	11月7日	土	映写：中央地域視聴覚ラ イブラリー映写ボランテ ィア「シネマ友の会」	泥棒と殿様、日暮砵	12	大人12
5	12月6日	土	映写：中央地域視聴覚ラ イブラリー映写ボランテ ィア「シネマ友の会」	フランダースの犬、雪渡り、サンタさ んは大いそがし	5	大人2 小人3
6	2月6日	土	映写：中央地域視聴覚ラ イブラリー映写ボランテ ィア「シネマ友の会」	①泣いて笑って涙して ポコアポコ ②愛しいとしの花子さん	9	大人6 小人3

	期日		運営	内容	参加者数	備考
7	3月6日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」	春のアニメ特集 ①一さつのおくりもの②ねぎぼうずの朝あさたろう 巻の四～大笑い一番勝負～・～もろこし天狗党あらわる～	17	大人7 子供10

※【平成14年度～】盛岡教育事務所中央地域視聴覚ライブラリーとの共催による映画会。映写は16ミリ映写機操作技術講習会修了証を有するライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」が担当した。

※4～6月は中止。

■県博出前講座

※学芸第三課〔金子昭彦〕担当 延べ839人

表5(2)-21 県博出前講座参加者数等

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	5月27日	水	武田麻紀子 米田寛	岩手県立平舘高等学校	令和2年度博学連携事業 「漁師の勲章大漁着」	6	
2	6月13日	土	渡辺修二	岩手県立久慈高等学校	水質調査について	5	
3	6月26日	金	鈴木まほろ	八幡平市立柏台小学校	学校周辺の植物調べ	17	
4	7月6日	月	米田寛	岩手県立遠野高等学校	石碑・縄文土器の拓本	11	
5	8月29日	土	鈴木まほろ 渡辺修二 高橋雅雄	盛岡市立河北児童センター保護者会クローバーの会	令和2年度第1回講習会 「児童センターとその周りの自然観察」	18	
6	9月25日	金	高橋雅雄	盛岡市立仙北小学校	田んぼの鳥を守ること	123	
7	10月9日	金	渡辺修二	盛岡市立仙北小学校	岩手のカワシンジュガイ	123	
8	10月27日	火	望月貴史	盛岡市立下橋中学校	岩手の化石	58	
9	10月27日	火	鈴木まほろ	盛岡市立仙北小学校	生物多様性のおはなし	123	
10	11月28日	水	高橋雅雄	盛岡市立河北児童センター保護者会クローバーの会	令和2年度第2回講習会 「高松の池白鳥・野鳥観察会」	18	
11	12月15日	火	望月貴史	岩手県立となん支援学校	岩手の化石	7	
12	12月26日	土	鈴木まほろ	岩手県立盛岡第三高等学校	課題研究：陸域生態系2班 「生物多様性」	3	
13	1月21日	木	近藤良子 米田寛	八幡平市立柏台小学校	昔のくらしと人々の知恵	7	
14	1月22日	金	丸山浩治	岩手県立岩谷堂高等学校	津波で被災した資料の再生	39	
15	2月5日	金	武田麻紀子	盛岡市立仙北小学校	原敬と新渡戸稲造	128	
16	2月18日	木	近藤良子 米田寛	滝沢市立滝沢小学校	昔のくらしと人々の知恵	138	

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
17	3月5日	金	丸山浩治 日時和哉	盛岡となん支援学校	世界遺産「平泉」について 及び縄文～平安の遺物見 学	15	

※当館が講師派遣に係る実費を負担したもの

(ウ) 講演会・講座に係る職員派遣

※学芸第三課〔金子昭彦〕担当 延べ495人

表5.(2)-22 職員派遣講演会・講座参加者数等

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	7月10・11日	土・日	望月貴史	三陸ジオパーク推進協議会	三陸の成り立ちから見るジオパークの魅力	76	道の駅くじ他2か所
2	7月7日	火	鈴木まほろ	岩手大学人文社会科学部	岩手大学博物館実習	12	岩手大学
3	7月14日	日	鈴木まほろ	岩手大学人文社会科学部	岩手大学博物館実習	12	岩手大学
4	7月16日	日	武田麻紀子	山形県米沢女子短期大学日本史学科	寺子屋の学び～江戸時代の道德教育	47	米沢女子短期大学
5	7月25日	土	渡辺修二	子ども食堂キッチンスマイルの会	自然観察会	30	みちのく民俗村
6	7月26日	日	鈴木まほろ	岩手県環境生活部自然保護課	グリーンボランティアスキルアップ研修	22	峰南荘
7	7月29日	水	武田麻紀子	八幡平市立寺田コミュニティセンター	七時雨大学講話「戊辰戦争と盛岡藩」	40	八幡平市立寺田コミュニティセンター
8	8月2日	日	渡辺修二	たきざわ環境パートナーシップ会議	いきもの探偵隊「キッズ観察会」	24	滝沢市土賊川遊水地
9	8月7日	金	鈴木まほろ	金ケ崎町生活環境課	子ども向け自然観察会	7	金ケ崎町中央生涯学習センター
10	8月22日	土	鈴木まほろ	金ケ崎町生活環境課	マツムシソウ観察会	21	千貫石公民館
11	9月4日	金	金子昭彦	松園地区公民館	岩手県の縄文文化	14	松園地区公民館別館調理実習室
12	9月5日	土	渡辺修二	滝沢市教育委員会文化振興課	「滝沢市の歩み」学習講座～きみも滝沢市の虫博士になろう～	15	滝沢市埋蔵文化財センター
13	9月17日	月	金子昭彦	盛岡市中央公民館	世界遺産登録・北の縄文文化	11	盛岡市中央公民館

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
	日	曜日					
14	10月31日	土	金子昭彦	(一社)次世代漆協会	縄文の漆文化と上米内遺跡	15	JR山田線上米内駅
15	10月31日	土	渡辺修二	金ヶ崎町役場生活環境課	生物多様性講座自然観察会	5	金ヶ崎町内黒沢川ほか
16	11月14日	土	望月貴史	岩手県高等学校教育研究会理科部会	令和2年度岩手県高等学校教育研究会理科部会研修会(雫石地域の地質巡検)	8	雫石町橋場～西安庭
17	11月14日	土	丸山浩治	弘前大学大学院地域社会研究科	古代の遺跡から未来を想う(弘前大学大学院地域社会研究科令和2年度公開セミナーin宮古市「古代を未来につなげる真の地域学の可能性」)	25	宮古市市民交流センター
18	11月19日	木	木戸口俊子	西松園ひまわりクラブ	岩手の大衆芸能、テーマ展の解説	15	当館教室
19	11月22日	日	鈴木まほろ	大津波プロジェクト	シンポジウム「自然史標本レスキューの現在地点とこれから」	69	大阪自然史博物館
20	1月30日	土	高橋雅雄	盛岡市中央公民館	令和2年度環境講座人と野鳥の関わりについて学ぼう!「野鳥を守ること～絶滅と復活の道のり～」	27	盛岡市中央公民館

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担、もしくは共同プロジェクトとして実施したもの。

## イ. 学校教育との連携

### (ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

表 5. (2)-23 学習利用者数等

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	6月23日	岩手県	小	盛岡市立東松園小学校	授業	2	29	31
2	7月7日	岩手県	小	洋野町立大野小学校	社会科見学	3	17	20
3	7月7日	岩手県	小	盛岡市立高松小学校	社会科授業	3	51	54
4	8月27日	岩手県	小	一関市立弥栄小学校	修学旅行	3	10	13
5	8月28日	岩手県	小	一関市立室根東小学校	修学旅行	3	13	16
6	8月28日	青森県	小	南部町立福田小学校	修学旅行	3	30	33
7	9月11日	岩手県	小	陸前高田市立米崎小学校	修学旅行	4	26	30
8	9月11日	岩手県	小	住田町立世田米小学校	修学旅行	3	19	22
9	9月11日	岩手県	小	住田町立有住小学校	修学旅行	3	14	17
10	9月11日	岩手県	小	一関市立涌津小学校	修学旅行	4	19	23
11	9月11日	岩手県	小	一関市立大東小学校	修学旅行	5	58	63
12	9月15日	岩手県	小	紫波町立古館小学校	社会科見学	6	89	95
13	9月17日	岩手県	小	一関市立東山小学校	修学旅行	5	49	54
14	9月18日	岩手県	小	普代村立普代小学校	修学旅行	3	16	19
15	9月18日	岩手県	小	一関市立猿沢小学校	校外学習	2	11	13
16	9月18日	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	校外学習	4	102	106
17	9月25日	岩手県	小	一関市立興田小学校	校外学習	3	21	24
18	9月26日	青森県	小	青森市立古川小学校	修学旅行	3	13	16
19	9月29日	岩手県	小	盛岡市立太田東小学校	社会科見学	3	50	53
20	9月29日	岩手県	小	盛岡市立月が丘小学校	社会科見学	3	48	51
21	9月30日	岩手県	小	盛岡市立洪民小学校	社会科見学	5	49	54
22	9月30日	岩手県	小	九戸村立山根小学校	社会科見学	2	5	7
23	9月30日	岩手県	小	九戸村立戸田小学校	社会科見学	2	14	16
24	9月30日	岩手県	小	平泉町立平泉小学校	修学旅行	5	38	43
25	9月30日	岩手県	小	大船渡市立大船渡小学校	修学旅行	5	39	44
26	10月1日	岩手県	小	金ヶ崎町立第一小学校	見学学習	5	21	26
27	10月1日	宮城県	小	仙台市立泉が丘小学校	修学旅行	5	30	35
28	10月2日	岩手県	小	滝沢市立滝沢中央小学校	社会科見学	5	86	91
29	10月7日	岩手県	小	滝沢市立鶴飼小学校	社会科見学	6	106	112
30	10月15日	宮城県	小	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	5	31	36
31	10月20日	岩手県	小	奥州市立常盤小学校	修学旅行	2	38	40
32	10月21日	岩手県	小	紫波町立日詰小学校	見学学習	4	58	62
33	10月22日	岩手県	小	大船渡立大船渡小学校	修学旅行	4	23	27
34	10月23日	岩手県	小	陸前高田市立高田小学校	修学旅行	4	31	35
35	10月23日	秋田県	小	羽後町立西馬音内小学校	修学旅行	5	53	58
36	10月28日	青森県	小	三沢市立古間木小学校	修学旅行	4	23	27
37	10月28日	岩手県	小	紫波町立日詰小学校	修学旅行	8	74	82
38	10月29日	岩手県	小	一関市立一関小学校	修学旅行	10	96	106



	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
39	10月30日	岩手県	小	金ヶ崎町立三ヶ尻小学校	修学旅行	4	19	23
40	10月30日	岩手県	小	金ヶ崎町立西小学校	修学旅行	4	12	16
41	10月30日	秋田県	小	湯沢市立湯沢東小学校	修学旅行	2	33	35
42	11月5日	岩手県	小	奥州市立岩谷堂小学校	修学旅行	8	102	110
43	11月5日	岩手県	小	盛岡市立中野小学校	社会科見学	4	103	107
44	11月6日	岩手県	小	岩泉町立釜津田小学校	修学旅行	3	3	6
45	11月6日	岩手県	小	岩泉町立大川小学校	修学旅行	2	6	8
46	11月6日	岩手県	小	盛岡市立羽場小学校	社会科見学	2	32	34
47	11月6日	岩手県	小	山田町立船越小学校	修学旅行	5	22	27
48	11月6日	岩手県	小	田野畑村立田野畑小学校	修学旅行	3	34	37
49	11月10日	岩手県	小	紫波町立日詰小学校	校外学習	3	67	70
50	11月26日	岩手県	小	盛岡市立青山小学校	社会科見学	4	105	109
51	11月27日	福島県	小	福島県立佐倉小学校	修学旅行	4	41	45
52	11月27日	岩手県	小	宮古市立田老第一小学校	修学旅行	3	17	20
53	1月21日	岩手県	小	紫波町立赤石小学校	下見	1	0	1
54	1月26日	岩手県	小	紫波町立赤石小学校	社会科見学	3	62	65
55	1月27日	岩手県	小	岩手町立沼宮内小学校	社会科見学	2	39	41
56	2月18日	岩手県	小	八幡平市立平笠小学校	社会科見学	3	14	17
57	2月26日	岩手県	小	盛岡市立生出小学校	社会科	1	8	9
58	3月30日	岩手県	小	奥州市立岩谷堂小学校	下見	3	0	3
59	3月31日	宮城県	小	名取市立那智が丘小学校	下見	1	0	1
<b>合計</b>						<b>219</b>	<b>2219</b>	<b>2438</b>

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	9月11日	北海道	中	木古内町立木古内中学校	修学旅行	5	24	29
2	9月16日	宮城県	中	栗原市立志波姫中学校	研修	3	22	25
3	9月17日	岩手県	中	宮古市立田老第一中学校	研修	4	23	27
4	9月25日	岩手県	中	軽米町立軽米中学校	自主研修	0	14	14
5	10月23日	青森県	中	十和田市十和田湖中学校	修学旅行	2	3	5
6	11月5日	岩手県	中	一関市立一関東中学校	総合的な学習	3	21	24
<b>合計</b>						<b>17</b>	<b>107</b>	<b>124</b>

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	7月16日	岩手県	高	岩手県立平舘高校(1年)	授業	6	51	57
2	7月17日	岩手県	高	岩手県立平舘高校(2年)	授業	5	41	46
3	7月31日	岩手県	高	岩手県立平舘高校	博学連携	2	5	7
4	10月10日	岩手県	高	岩手県立黒沢尻北高校(1・2年)	授業	4	17	21
5	10月30日	山形県	高	山形県立山形聾学校	修学旅行	2	2	4
6	11月27日	岩手県	高	岩手県立軽米高等学校(2年)	修学旅行	5	43	48
7	12月11日	岩手県	高	岩手県立久慈東高等学校	校外学習	11	105	116
<b>合計</b>						<b>35</b>	<b>264</b>	<b>299</b>

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	5月20日	岩手県	大	岩手大学教職大学院	研修	1	8	9
2	7月11日	岩手県	大	岩手大学農学部森林科学科	授業	2	33	35
3	7月17日	岩手県	大	上野法律ビジネス専門学校	研修	1	14	15
4	12月8日	岩手県	大	岩手県立大学盛岡短期大学部生活デザイン専攻	授業	1	27	28
<b>合計</b>						<b>5</b>	<b>82</b>	<b>87</b>

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	5月30日	岩手県	特	岩手県立みちのく・みどり学園	校外学習	1	2	3
2	6月5日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校高等部	校外学習	2	1	3
3	7月21日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校高等部	校外学習	9	9	18
4	10月22日	岩手県	特	岩手県立盛岡みたけ支援学校 奥中山校	校外学習	5	9	14
5	10月23日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校高等部	校外学習	3	2	5
6	11月25日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校高等部	校外学習	5	3	8
7	12月24日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校中等部	社会科見学	3	5	8
8	3月3日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校中等部	理科・社会科	2	5	7
<b>合計</b>						<b>30</b>	<b>36</b>	<b>66</b>

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	8月18日	岩手県	幼	MH ナーサリー	園外学習	4	21	25
2	10月16日	岩手県	幼	緑が丘幼稚園	園外学習	2	8	10
3	11月12日	岩手県	幼	盛岡大学附属松園幼稚園	親子遠足	4	11	15
4	2月19日	岩手県	幼	月が丘幼稚園保育園	遠足	3	53	56
5	2月24日	岩手県	幼	青葉幼稚園	卒園遠足	3	35	38
6	2月26日	岩手県	幼	青葉幼稚園	卒園遠足	3	40	43
<b>合計</b>						<b>19</b>	<b>168</b>	<b>187</b>

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	1月21日	岩手県	保	わかば保育園	園外学習	2	14	16
<b>合計</b>						<b>2</b>	<b>14</b>	<b>16</b>

令和2年度学習利用受け入れ総数

※下見を含まない

	県内	秋田	宮城	青森	他	合計
小	2,154	93	71	75	45	2,438
中	65	0	25	5	29	124
高	295	0	0	0	4	299
大	87	0	0	0	0	87
特	66	0	0	0	0	66
幼	187	0	0	0	0	187
保	16	0	0	0	0	16
合計	0	0	0	0	0	0

計3,217人

(イ) 教材貸出

昨年度は6件77点の貸出を行ったが、今年度は5件44点であった。内訳は下のとおりである。小学校への貸出が2件、中学校が1件、高等学校2件であった。コロナ禍により、密になることや接触感染を恐れ、また行事自体の中止により、貸出は少なかった。小学校への貸出は、例年どおり「社会科」の「昔の道具とくらし」に係るものである。ホームページから僅かながら新規の照会もあったので、今後もメニューの充実を図っていきたい。

表5. (2)-24 令和2年度の教材貸出一覧

貸出日	貸出先	点数	資料
4月20日	盛岡スコール高等学校	9	黒曜石破片(6) 火おこし器(3)
7月9日	岩手県立杜陵高等学校	5	火縄銃(1) 小桂(1) 水干(1) 高麗縁半畳(1) 盛岡城下図書館所蔵4倍(1)
12月15日	盛岡白百合学園小学校	14	こねばち 炭火アイロン ランプ そろばん つまごなど 写真(氷冷蔵庫、かまど、羽釜)、説明プレート
1月24日	盛岡市立北松園小学校	7	でんわ(1) そろばん(2) アイロン(1) 石臼(1) たら い・せんたく板(各1)
2月13日	盛岡市立下小路中学校	9	ワモンキシタバ、キアゲハ、コムラサキ、ヒメヤママユ、 ランプ、胴乱、展翅板等標本作成用具、三角紙、三角管

(ウ) 博物館館園実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、また県出身者を対象としている。地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割について講義等を行っている。実習期間と受け入れ人数等は次のとおり。なお、今年度は新型コロナウイルスの影響により大学行事が変更され、1名の辞退者があった。

令和2年8月20日(木)～8月27日(木)(8月24日(月)休館日除く7日間)

長岡造形大学1名、石巻専修大学1名、上智大学1名、大東文化大学1名、盛岡大学1名、岩手大学4名、米沢女子短期大学1名、計10名

## ウ. 職場体験・インターンシップ

今年度は職場体験・インターンシップとも申し込みはなかった。(令和元年度は4件7名)。  
また、中堅教諭等資質向上研修社会体験についても申し込みはなかった。

## エ. 問い合わせ受付状況

日常的に学芸員が対応する問合せについて、集計を行っている。計画されている事業に関わるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究に関わるものも含んでいる。

表 5. (2)-25 令和2年度問い合わせ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	26	来館	18	石、化石の鑑定(10件)、久慈市で見つかった恐竜の化石と地層、県内で滑石が採集できる場所、顕微鏡の使い方、カンブリア紀の化石について、など
		電話	3	岩手町に落下した隕石、一関市磐井川で見つけた化石のようなもの、家にある庭石の引き取り・買い取りについて、など
		FAX、メール、手紙、その他	5	三陸ジオパークガイドブックの内容(2件)、地質学や古生物学に関する進路相談と学芸員の仕事、久慈産昆虫入り琥珀の収蔵の有無について、など
生物	162	来館	30	骨の同定依頼、植物の葉の同定依頼、生物の保全に関する相談、生物の生育・生息場所に関する情報提供依頼、学芸員の仕事に関するインタビューなど
		電話	41	生物の見分け方、生物の県内生息状況に関する情報提供依頼、津波後の自然環境の変化についてなど
		FAX、メール、手紙、その他	84	写真に写った生物の同定依頼、生物の生育・生息場所に関する情報提供依頼、明治時代の文献に記述された生物名について、生物標本の保管管理方法の助言、生物の写真の提供依頼、天然記念物の保全に関する助言など
考古	23	来館	6	土器の鑑定(3件)、石器の鑑定、縄文人・古墳時代人・平安時代人のDNA、土偶は何に使われたのか
		電話	14	北上市兵庫館遺跡例は再葬墓か、一関市熊穴洞穴出土土器は弥生土器か、岩手県南部でヒスイ製玉類が出土している縄文時代晩期の遺跡、花巻市周辺で土偶はたくさん出土しているか(宮沢賢治「土偶」に関連して)、など
		FAX、メール、手紙、その他	3	縄文時代の津波痕跡の調査事例、北上山地に関する岩石学専門家について、東北の製鉄技術の歴史に関する資料について紹介してほしい。
歴史	40	来館	13	県内の疫病関連碑、二条家と南部家のかかわり、盛岡監獄のあった場所、当館所蔵の古文書の数、所蔵掛け軸・小刀・蹄鉄の鑑定、など
		電話	26	雫石町内の疫病関連碑、岩手県における国防婦人会の広がり、孔雀石の拵え、「嘉永四年の定」、刀剣の登録、高水寺斯波氏、末崎仁平撮影写真、など
		FAX、メール、手紙、その他	1	南部鉄瓶
民俗	73	来館	11	岩手県に特徴的な衣食住、男雛の座り方、土間の道具、芥子人形、直家のせいろ、出羽三山信仰、ハレとケ、など
		電話	50	流行病について藩政時代の岩手ではどのように乗り越えてきたのか・行政の関与は、アマビエとは、厩舎の馬用か牛用かの見分け方、岩泉地方の隠し念仏と思われる儀式について、宮古のお盆行事「松明かり」、など

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
		FAX、メール、手紙、その他	12	当館展示資料「東芝洗濯機」の制作年代、当館所蔵の馬にまつわる資料、岩手山の「お山かけ」、判官堂弓術秘伝書の内容、狼頭骨、大槌町名の由来、南部相撲、など
文化 財科 学	11	来館	3	木製品の保存処理方法、紙資料（模造紙）の修理方法、など
		電話	5	堅果類の保存処理方法と燻蒸の依頼、古い文書類のクリーニングおよび保管の仕方と燻蒸の可否、被災文化財保存修復施設の大きさや設置機器等、木製ベンチの燻蒸、など
		FAX、メール、手紙、その他	3	遺跡で出土した脆弱な金属製品の取り上げ方と一時保管方法、金属製品をアルコールに浸けたまま長期保存しているが妥当か、金属製品の年代測定方法等（当館に委託可能か）。
合計	335			

### (3) 調査研究活動

調査研究活動は、博物館の展示活動、教育普及活動等を展開するうえでの基幹活動に位置づけられる。学芸員が取り組む研究テーマは、小テーマ、小テーマを包括する大テーマに区分され、それぞれのテーマに従い研究が行われた。一部の研究テーマについては研究協力員、他機関に所属する研究者と共同で進められた。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、全学芸員から令和2年度の研究進捗状況、研究成果が報告された。

また、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第38号および『岩手県立博物館調査研究報告書』第35冊のほか、学会、学術雑誌、各種報告書等で公表された。考古部門では岩手県教育委員会からの委託による縄文時代の環状列石を含む配石遺構の研究を受託し、生物学部門では自然史標本データ整備事業を実施した。

#### ア. 調査研究活動の概要

地質部門4テーマ、生物部門6テーマ、自然史部門（地質・生物）1テーマ、考古部門5テーマ、歴史部門8テーマ、民俗部門5テーマ、文化財科学部門3テーマで調査研究活動が推進された。

表5(3)-1 令和2年度 調査研究テーマとその実施状況

部門	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
地質	地域地質に関する研究A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月 貴史 山岸 千人	陸前高田市からの依頼調査として、当館研究協力員の大石雅之氏と共同でペルム系上八瀬層の地質学的調査を行った。三陸ジオパークエリア内で、ジオパーク解説書並びにジオサイトの見直しに係る基礎的な現況調査を行った。その成果の一部は本年度三陸ジオBOOKの改定に反映させることができた。
	地域地質に関する研究B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	山岸 千人 望月 貴史	展覧会「化石の水族館」ならびに地質観察会に関連して、秋田・岩手県境付近の調査を行った。当館元学芸員佐藤二郎氏が魚類化石について調査研究を行った地域に隣接する。本年度は報告できるような成果は得られず、次年度以降も調査を継続したい。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月 貴史	これまでに行ってきた古生物学的研究を元に、テーマ展「化石の水族館」を実施した。また、東京学芸大学の佐藤たまき氏らと共同で白亜系種市層から産出した脊椎動物化石群について、種の同定を進め、古生態系等の考察を行った。今後も継続的に調査を行っていくこととする。
	地域環境に関する研究	火山・地震・気象現象に関する研究	山岸 千人	①奥州市在住の吉田智子氏と共同で学校での理科（または地域についての）学習や当館での地質観察会の実施を念頭に置いて、奥州市～平泉付近の地学事象が見られる場所を調査した。地理的に範囲が広く未だ訪れていない場所が多いため次年度も継続して調査研究を行いたい。②八幡平山頂付近にある鏡沼で見られる現象「ドラゴンアイ」について昨年度に続き観察を継続している。③宅地造成によって出現した「大石渡岩層なだれ堆積物」の露頭について、調査内容をまとめた。

部門	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
生物	地域生態系の研究	東北地方の里地の生態系に関する研究	鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄	春子谷地湿原（滝沢市）と高松公園芝水園（盛岡市）において生息生物の分布調査を実施した。春子谷地湿原の調査結果を滝沢市教育委員会及び同観光物産課に報告した。
	日本産鳥類の生態学的研究	湿性草原に棲む潜行性鳥類の生息状況推定方法の開発	高橋 雅雄	(1)繁殖期の湿性草原棲サギ類を対象に、青森県三沢市の仏沼にて夕方の音声プレイバック調査を5月～9月に月1回行い、同期間に音声のタイマー録音と静止画のカメラトラップも合わせて実施した。サンカノゴイとヨシゴイが記録された。(2)越冬期の湿性草原棲クイナ類を対象に、茨城県神栖市の耕作放棄地にて夕方の音声プレイバック調査を1月～3月に月1回行い、同期間に音声のタイマー録音と静止画のカメラトラップも合わせて実施した。クイナ・ヒクイナ・シマクイナが記録された。
	国内および県内における鳥類分布に関する研究	湿性草原の生物多様性保全における耕作放棄地の生態的価値：越冬鳥類を指標とした評価	高橋 雅雄	近畿以西の湿性草原および耕作放棄地を衛星写真や文献情報にて収集し、調査候補地をリストアップした。なお、新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた西日本での越冬調査と関東地方での植生調査は来年度以降に延期した。
	地域の無脊椎動物相と生態に関する研究	岩手県内における無脊椎動物相の研究	渡辺 修二	大船渡市大窪山で発見されたハッチョウトンボの生息地及び周辺地域での分布を調査し、結果を県博日曜講座で講演した。八幡平市夜沼、大船渡市碁石海岸でクモの生息調査を行い、結果を岩手県立博物館研究報告第38号に投稿した。また、高校生の中屋氏がホンドウラジムシを盛岡市繫で採集したことについて、金沢大の布村氏らと共著で、同38号に投稿した。弘前大学の吉田氏とともに、盛岡市、宮古市、久慈市、葛巻町、住田町、大船渡市の洞穴及び河川に生息するプラナリアの分布調査を行った。 片岡佐太郎氏のクモ調査記録を精査し、スケッチ等をもとに再同定を行った。確認された採集記録をまとめ、岩手県立博物館調査研究報告書第35冊として発表した。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする植物の分布と生態に関する研究	鈴木まほろ	金ヶ崎町においてマツムシソウの個体数調査を行った。また、岩手山・三陸北部海岸等において絶滅が危惧される植物の分布・生育環境調査を行い、結果をいわてレッドデータブック改訂検討委員会に報告した。早池峰山において植物の食痕モニタリング調査とセンサーカメラによるニホンジカ等行動調査を行い、結果を県及び東北森林管理局のニホンジカ対策関連委員会で報告したほか、内容の一部を県博日曜講座で講演し、動画を公開した。また、センサー

部門	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
				カメラによる調査結果を日本生態学会第 68 回大会（オンライン開催）においてポスター発表した（3月）。
		県内の植物相の研究	鈴木まほろ	『岩手県植物誌』の改訂に備え、県内の植物相について現地調査および標本・文献調査を行い、情報整理を進めた。
自然史（地質・生物）	自然史標本の管理・公開に関する研究	自然史標本の管理・公開、成果の発信に関する研究	山岸 千人 望月 貴史 鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄	文化財等取扱講習会において、市町村文化財担当者・博物館等施設職員を対象に、自然史標本の管理法について講義と実習を行った（1月）。2020年7月豪雨で被災した熊本県人吉市人吉城歴史館所蔵の植物標本の一部を預かり、冷凍保管し、洗浄・乾燥作業を行った（7月-3月）。GBIF日本ノード主催のパネル討論会「これからの日本の生物多様性情報インフラを考える」にパネラーとして参加し、生物標本情報の公開に関して発信をおこなった（2月）。生物標本の特性と管理法、水害時に被害を軽減する方法について、東北大学を拠点とする「歴史文化資料保全コーディネーター講座」においてオンライン講義を行った（3月）。
	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	小山内 透 濱田 宏 金子 昭彦	鳥畑壽夫コレクションについては、令和3年度の収蔵目録の公開に向けて整理を進めた。草間俊一コレクションについては早期の収蔵目録公開に向けて資料調査と整理を継続した。小岩末治コレクションについては、「収蔵目録考古VII 小岩末治コレクション その1」を刊行しており、「その2」の発刊に向け、残る資料の写真・古文書等の資料調査と整理を継続した。
考古	先史時代の考古学的研究	縄文時代の土偶の研究	金子 昭彦	縄文土偶の最近の研究動向および東北地方北部の土偶の歴史についてまとめ、論文として発表・投稿した。さらに、土偶について新たな知見を得るため、縄文時代の人物画について検討し、館内調査研究報告会で発表した。
		縄文時代の環状列石を含む配石遺構の研究	濱田 宏 金子 昭彦	洋野町西平内 I 遺跡の環状列石関連調査およびハンドボーリング調査を実施し、これまでの遺跡範囲がさらに南側に広がることを確認した。
	歴史時代の考古学的研究	縄文時代、古代における狩猟と生産	濱田 宏	縄文時代の陥し穴の底面にある副穴について、情報の収集を行った。
岩手の古代鉄生産の研究		小山内 透	昨年度のテーマ展「古・岩手のクロガネ」等で報告した成果に、県内の鉄生産関連遺跡の新規発刊報告書の分析結果を加味し、かつ県内製鉄遺構の構造変	



部門	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
				遷について歴史的背景を六国史等から概観し、成果については日曜講座で発表した。
歴史	古代～中世史の研究	古代・中世の東北史の研究	目時 和哉	文献史料が希薄な時代に営まれた、青森県三戸町、弘前市周辺の南部氏及び津軽氏に関する中世城館跡の踏査を行った。とりわけ聖寿寺館跡では新発見が相次いでおり、今後文献史料と照らし合わせて整理した上で、順次展示等での紹介を検討していきたい。
	近世史の研究	盛岡藩における商人の活動についての研究	昆 浩之	前川善兵衛の出自に関して、文献史料を中心にして考察をおこなった。
	古銭・紙幣の研究	昭和の古銭・紙幣についての研究	菅野 誠喜	出前講座等で使用できるように、貨幣・紙幣セットを作った。
	前近代における美術工芸の研究	中国古印の研究	菅野 誠喜	当館が所蔵する中国古印の資料群「太田孝太郎コレクション」について岩手大学の劉・玉澤両教授とともに、基礎データの収集・整備を行った。
	岩手の地域研究	気仙地方の歴史研究	菅野 誠喜	40周年記念展で展示予定の気仙三十三観音を調査し、館内調査報告会で報告した。
	近代・現代史の研究	岩手の政治思想の研究	武田麻紀子	幕末から大正にかけて、岩手にかかわる先人たちの政治思想・活動を追うことで、政治制度および人々の政治参加意識の変遷を考察し、展覧会および講座で発表した。
	災害史・災害文化に関する研究	三陸地方の津波被害の歴史に関する研究	目時 和哉	三陸地方における近現代の津波関連モニュメントを建立した人々の心性について、大正期に発生したスペイン・インフルエンザの事例と対置することで、その特徴を明らかにすることを試みた。考察の前提としてスペイン・インフルエンザ関連史料の基礎的調査を行い、それらを通して得られた知見について、当館の研究報告にて公表した。
	被災文化財に関する研究	津波被害文化財の再生と利活用に関する研究	目時 和哉	東京家政学院大学石垣悟氏・陸前高田市立博物館と共同で、船大工による和船製作過程を記録することを通して、資料情報の大半が失われた文化財を再び博物館で利活用可能な状態に復するために必要な資料情報の再収集を行うことを試みた。次年度にまたがる試行の成果は令和3年度映像作品として広く公開可能な形にまとめることを予定している。
民俗	有形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 米田 寛	県内の民具全般について、資料収集及び基礎的調査を行い展示やデジタルアーカイブなどで公表した。特に今年度は盛岡竿について既存資料のほか新たに収集した資料の調査を進め、記録整理した後、いわて文化史展示室において展示を行った。

部門	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 米田 寛	40周年記念普及解説書にむけて、沿岸地域の民俗芸能や信仰についてまとめた。また今年度は無形民俗に係る一般やマスコミなどの問い合わせ事項が多く、そのことに対応した。
	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	近藤 良子	南部曲がり屋の住まい方、保存・活用を検討する中で、耐震工事に伴い民家の伝統構法について、調査確認をすすめた。
	民俗芸能に関わる研究	岩手の操り人形に関する研究	木戸口俊子	当館所蔵の淡路人形を中心に、現在残る広瀬人形芝居常楽座や倉沢人形歌舞伎や既に廃れてしまったものなど、江戸・明治期～昭和の岩手県の操り人形（人形芝居）に関して聞き取りや資料の実見による情報収集を行い、展覧会で実施し成果を公表した。
	生業に関する研究	色材に関する研究	米田 寛	顔料や染料に関わる研究調査を行った。特に漆工芸家故古関六平氏の漆工芸作品や製作過程に関わる材料や道具等について調査を行った。
文化財科学	文化財の保存修復に関する研究	津波被災資料の安定化処理法および抜本修復法に関する研究	丸山 浩治	昨年度に見直しを図った紙製資料安定化処理法を今年度の作業で実践し、洗浄・脱塩処理を進めた。安定化処理終了時点での洗浄不足や異常は認められず、今後経過観察を行うことで長期的な変化をみていくことになる。なお、安定化処理法の変遷や問題点等について、令和3年度の県博日曜講座で報告する予定である。
		安定化処理に使用する薬剤が資料に与える影響	山崎 遙	紙資料の脱酸処理後の経過状態を観察し、脱酸の有効性を追求した。
	文化財科学的手法を用いた考古資料の含有物質に関する研究	沿岸部出土土器に残存する塩分に関する研究	丸山 浩治	陸前高田市立博物館所蔵の津波被災土器と臨海部出土非被災土器及び内陸部出土土器の残留塩分を蛍光X線分析装置を用いて測定し、基礎データの蓄積を行った。

表5(3)-2 調査研究活動に関わる製作・同定

部門	事業名	内容
地質	岩石標本箱製作	木箱（浅箱）9個を製作した。
	岩石薄片製作	岩石薄片10枚を製作した。
生物	標本同定	当館研究協力員の千葉武勝氏から寄贈されるヒメハナバチ標本100点の同定を、専門家である松村雄氏に依頼した。

## イ. 館内調査研究報告会

令和2年度館内調査研究報告会プログラム

〔日 時〕 令和3年3月1日（月） 9:30～15:50

- 9:30~9:35 開会行事 挨拶 高橋 廣至 (館長)
- I 個別調査研究 午前の部 (10分1鈴、12分2鈴=終了・質疑、15分3鈴終了)
- 9:45~10:00 岩手における環状列石関連遺跡調査洋野町『西平内I遺跡』調査報告2 濱田 宏
- 10:00~10:15 縄文時代の人物画 金子 昭彦
- 10:15~10:30 中世以降の岩手の製鉄―築炉技術の進化と歴史的背景― 小山内 透
- 10:30~10:45 紙資料への脱酸処理の有効性 山崎 遙
- 10:45~11:00 [休憩]
- 11:00~11:15 非破壊蛍光X線分析による沿岸部出土土器の残存塩分調査 丸山 浩治
- 11:15~11:30 特別展「いのちの色 赤」事前調査成果 儀礼交易と古代赤彩土器 米田 寛
- 11:30~11:45 盛岡竿の歴史的背景と竿師考 近藤 良子
- 11:45~12:00 岩手の操り人形 (人形芝居) 木戸口俊子
- 午後の部
- 13:00~13:15 建碑のいとなみからみえる厄災に直面した近代人の心性 目時 和哉
- 13:15~13:30 後北条氏家臣清水氏と前川善兵衛 昆 浩之
- 13:30~13:45 『東北新報』の戯画・風刺画―東北の自由民権運動― 武田麻紀子  
(発表なし) 気仙三十三観音霊場巡り・陸前高田編 菅野 誠喜
- 13:45~14:00 盛岡市黒石野に現れた泥質 (岩層なだれ) 堆積物について 山岸 千人
- 14:00~14:15 [休憩]
- 14:15~14:30 白亜系種市層から産出したサメの歯化石の報告 望月 貴史
- 14:30~14:45 絶滅危惧種サンカノゴイの繁殖期の生息調査法の評価 高橋 雅雄
- 14:45~15:00 片岡佐太郎氏クモ調査記録コレクションについて 渡辺 修二
- 15:00~15:15 早池峰山塊におけるニホンジカの季節・日周行動パターン 鈴木まほろ
- II 部門別調査研究
- 15:15~15:45 [地質・生物・考古・歴史・民俗・文化財科学]
- 15:45~ 閉会行事 講評 高橋 嘉行 (理事長)

## ウ. 調査研究成果の公表

### (ア) 『岩手県立博物館研究報告』第 38 号

(A4 判 PDF・45 頁・令和 3 年 3 月 31 日発行)

- 1 畑中梨菜 ジュランガムゲルを用いた水洗困難資料に対する安定化処理方法の構築に向けて 1-16
- 2 布村昇・中屋直哉・小松貴・渡辺修二 岩手県盛岡市の地下浅層からのホンドラジムシ *Hondoniscus kitakamiensis* Vandel (甲殻亜門, 軟甲綱, 等脚目, ナガラジムシ科) の発見 17-21
- 3 渡辺修二 岩手県大船渡市基石海岸のクモ 22-24
- 4 渡辺修二・鈴木まほろ 岩手県八幡平鴨田川源流域湿原及び夜沼のクモ 25-27
- 5 目時和哉 岩手県におけるスペイン・インフルエンザ流行の実態について 28-45

### (イ) 岩手県立博物館調査研究報告書第 35 冊

(A4 判 PDF・51 頁・令和 3 年 3 月 31 日発行)

渡辺修二 岩手県立博物館に寄贈された片岡佐太郎氏クモ類調査記録

### (ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作

(\*共同発表の際の当館職員)

#### a. 口頭発表等

- ・佐々木未悠・高橋雅雄\*・蛭名純一・東信行：営巣樹洞をめぐる闘争行動の定量評価の実験的試み：夏鳥と留鳥の近縁種間比較. 日本生態学会第 68 回大会, 令和 3 年 3 月, オンライン大会
- ・鈴木まほろ：早池峰山塊におけるニホンジカの日周・季節移動パターン. 日本生態学会第 68 回大会, 令和 3 年 3 月, オンライン大会

#### b. 論文・報文

- ・金子昭彦 (2020) 亀ヶ岡式的な土偶の広がり. DOGU 第 3 号 : 85-106. 査読なし.
- ・金子昭彦 (2020) 総論 令和の土偶研究. 考古学ジャーナル 745 : 3-4. 査読なし.
- ・金子昭彦 (2020) 北日本の土偶研究. 考古学ジャーナル 745 : 5-9. 査読なし.
- ・金子昭彦 (2021) 東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(6). 岩手考古学 第 32 号 : 7-34. 査読なし.
- ・金子昭彦 (2021) 亀ヶ岡式土偶に関する諸問題. DOGU 第 4 号 : 1-18. 査読なし.
- ・金子昭彦 (2021) 岩手県から見た東北北部三県の土偶様相. 青森県考古学 第 29 号 : 頁末. 査読なし.
- ・佐々木未悠・鈴木遥菜・高橋雅雄\*・蛭名純一・東信行 (受理) 青森県東部の低地疎林で繁殖するニューナイスズメ *Passer cinnamomeus* の帰還率. 日本鳥類標識協会誌. 査読あり.
- ・Masayuki Senzaki・Munehiro Kitazawa・Toshio Sadakuni・Masao Takahashi\* (2021) Breeding evidence of the vulnerable Swinhoe's Rail (*Coturnicops exquisitus*). *Wilson Journal of Ornithology*. 査読あり.
- ・立石淑恵・高橋雅雄\*・東信行 (2021) 青森県津軽地域における繁殖期のチゴハヤブサの採食内容. *Bird Research* 17: A1-A9. 査読あり.
- ・米田寛 (2021) 8 世紀中葉の赤彩土器が意味するもの. 北上市立博物館研究報告 第 22 号 : 頁末. 査読なし.
- ・米田寛 (2021) 三陸沿岸部の状況. 北上市立博物館研究報告 第 22 号 : 頁末. 査読なし.

#### c. 新聞での著作

読売新聞岩手版 土曜博物館 各月第一・三・五 土曜日掲載

- ・望月貴史 (地質学部門) 「太古の海-生命育んだ悠久の時-」2020 年 4 月 4 日
- ・山岸千人 (地質学部門) 「気温のダイナミズム-地球史に見る自然の神秘-」2020 年 4 月 18 日
- ・渡辺修二 (生物学部門) 「コイ-侵略的外来種 八幡平に-」2020 年 5 月 2 日
- ・武田麻紀子 (歴史学部門) 「鍬ヶ崎-南部領随一の繁地-」2020 年 5 月 16 日
- ・米田寛 (民俗学部門) 「大漁着-粋な着こなし 港町の祝着-」2020 年 5 月 30 日

- ・鈴木まほろ（生物学部門）「デジタルアーカイブ-收藏品 家で見て楽しむ-」2020年6月6日
- ・丸山浩治（文化財科学部門）「津波被災資料-塩分除去 紙を水洗い-」2020年6月20日
- ・小山内透（考古学部門）「製鉄炉-新技術取り入れ進化-」2020年7月4日
- ・近藤良子（民俗学部門）「盛岡竿-竹に漆 実用性兼ね備え-」2020年7月18日
- ・金子昭彦（考古学部門）「石包丁-胆沢川下流で稲作か-」2020年8月1日
- ・高橋雅雄（生物学部門）「オジロワシ-風力発電との共存 課題-」2020年8月15日
- ・望月貴史（地質学部門）「古生態学-化石から太古の動物知る-」2020年8月29日
- ・昆浩之（歴史学部門）「木製のホラ貝-農民の団体交渉にも-」2020年9月5日
- ・菅野誠喜（歴史学部門）「銀行-盛岡の変遷 今に伝える-」2020年9月19日
- ・目時和哉（歴史学部門）「安倍氏-奥六郡で台頭謎多き足跡-」2020年10月3日
- ・木戸口俊子（民俗学部門）「人形芝居-淡路発祥の大衆娯楽-」2020年10月17日
- ・近藤良子（民俗学部門）「龕灯-蝋燭 垂直保ち消えぬ工夫-」2020年10月31日
- ・渡辺修二（生物学部門）「ハッチョウトンボ-消えていく生息地-」2020年11月7日
- ・昆浩之（歴史学部門）「引札-江戸の経済発展で誕生-」2020年11月21日
- ・菅野誠喜（歴史学部門）「川井鶴亭「盛岡城下鳥瞰図」-藩境越え苦難の歴史-」2020年12月5日
- ・武田麻紀子（歴史学部門）「大日本帝国憲法-進歩的私案に見る情熱-」2020年12月19日
- ・山岸千人（地質学部門）「チバニアン-地層に残る地磁気の逆転-」2021年1月16日
- ・目時和哉（歴史学部門）「疫病退散塔-石碑語る感染症の歴史-」2021年1月30日
- ・米田寛（民俗学部門）「炭作り-「鬼滅」で注目の重労働-」2021年2月6日
- ・金子昭彦（考古学部門）「漆塗櫛-縄文人の高度な技術-」2021年2月20日
- ・高橋雅雄（生物学部門）「鳥類の剥製-貴重なイヌワシの仮剥製-」2021年3月6日
- ・濱田宏（考古学部門）「独鈷石-縄文 精神文化の一端-」2021年3月20日

d. その他の著作

- ・丸山浩治『火山灰考古学と古代社会 十和田噴火と蝦夷・律令国家』雄山閣，2020年8月

## エ. 受託研究実施状況

岩手県立博物館では、平成2年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する受託研究を実施している。平成24年度からは東日本大震災で被災した文化財等の安定化処理および修理を開始した。令和2年度の研究受託実績は表5(3)-3に示すとおりである。

表5(3)-3 令和2年度受託研究実施実績

受託内容	件数	委託機関
被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災自然史関連資料修理業務	1	教育委員会
被災昆虫標本修理業務	1	教育委員会
被災鳥羽源蔵コレクション安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災民俗資料安定化処理業務	1	教育委員会
被災考古資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除（くん蒸）業務	10	教育委員会、資料館等

## オ. 研究受託事業（岩手における環状列石関連遺跡調査）

考古部門では、昨年度より「岩手における環状列石関連遺跡調査事業」を岩手県教育委員会から新たに受託し、九戸郡洋野町種市に所在する「西平内Ⅰ遺跡」の発掘調査を洋野町教育委員会と合同で実施している。事業は5年計画とし、令和元年から都合4年間の発掘調査、その後1年かけて調査報告書を作成・発刊する予定である。

縄文時代後期前葉、北海道から北東北にかけては、環状列石をランドマークとする遺跡が複数存在し、当該期におけるこの地域の特徴の一つに数えられている。これらは、世界遺産の構成資産としても取り上げられる著名な遺跡群であるが、この西平内Ⅰ遺跡も過去2か年にわたる調査および追加調査によって、これらに劣らない内容をもつ遺跡と捉えられ、平成30年度には洋野町の史跡に指定された。

2年目を迎えた今回の調査は、昨年度とは別地点でのトレンチ掘削を主体とするものを第一次調査、地中の礫の広がりを観察するためのハンドボーリング調査を第二次調査と位置づけ、それぞれ9月中旬と11月上旬に実施している。

## カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料10,000件について、データ整理・整形を行い、提供した。

## キ. 学術研究貢献活動

当館学芸員が依頼を受けた学術雑誌の査読等、館外の学術研究活動に貢献したものを以下に示す。

令和2年度は表5(3)-4のとおり学術雑誌の査読を行った。

表5(3)-4 令和2年度学術雑誌の査読受託数

学芸員名	学術雑誌名	出版元	査読を行った時期
高橋雅雄（生物部門）	Ornithological Science	日本鳥学会	令和2年5月
高橋雅雄（生物部門）	日本鳥学会誌	日本鳥学会	令和2年7月
高橋雅雄（生物部門）	Ornithological Science	日本鳥学会	令和2年9月
高橋雅雄（生物部門）	千葉県立中央博物館研究報告	千葉県立中央博物館	令和2年10月
鈴木まほろ（生物部門）	保全生態学研究	日本生態学会	令和2年12月

## ク. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成11年度から実施している。研究協力員としての活動期間は3年間で、申請・審査を経て更新することができる。

令和2年度は7名の更新が承認された。令和3年3月末現在で14名（下記一覧、順不同）となっている。

### ○研究協力員（更新）

- 1 吉田充（元当館学芸第三課長・生涯学習文化財課文化財専門員）：大鉢森山周辺に分布する母岩変性岩類から産出する金属資源（金）の研究等[地質部門]
- 2 大石雅之（元当館学芸部長）：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究[地質部門]
- 3 工藤紘一（元当館学芸第二課長）：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究[民俗部門]
- 4 玉山光典（盛岡中央高等学校助教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相[生物部門]
- 5 後藤友明（岩手大学農学部准教授）：魚類分類学[生物部門]
- 6 大友令史（岩手県病害虫防除所）：病害虫の生態的研究[生物部門]
- 7 藤井千春（元当館主任専門学芸員・前沢高等学校助教諭）：北日本における発光生物の生態学的研究[生物部門]

### ○研究協力員（継続）

- 8 沼宮内信之（日本森林技術協会）：北東北の植物相（特にスゲ属）[生物部門]

- 9 千葉武勝（元岩手県病害虫防除所長）：昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作成、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 10 吉田裕生（元当館学第二課長）：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究〔地質部門〕
- 11 沼宮内耕作（元当館学芸部長）：岩手県の蘚苔類相〔生物部門〕
- 12 佐々木康裕（元当館専門学芸員・盛岡第一高等学校教諭）：古代・中世における岩手と中央政治との関係に関する研究〔歴史部門〕
- 13 土谷信高（元岩手大学教育学部教授）：岩石・鉱物を素材とする文化財の材質・製作技法に関する研究〔文化財科学部門〕
- 14 女鹿潤哉（元主任専門学芸員・杜陵高等学校教諭）：古代・中世の東北地方と北海道における物質文化交流についての文化財科学的研究〔文化財科学部門〕

## (4) 資料収集保管活動

### ア. 資料の収集整理

令和2年度3月末現在の登録資料数は8,570点で、開館以降の累計は333,385点にのぼる(表5(4)-1)。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は23件、4,366点である(表5(4)-2)。

表5(4)-1 令和2年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採集	令和元年度末累計	2,966	36,053	922	3	77	40,021
	令和2年度計	32	1512	0	0	101	1,645
	累計	2,998	37,565	922	3	178	41,666
発掘	令和元年度末累計	209	0	3,470	0	0	3,679
	令和2年度計	0	0	0	0	0	0
	累計	209	0	3,470	0	0	3,679
寄贈	令和元年度末累計	5,142	144,052	53,408	32,595	18,335	253,532
	令和2年度計	367	5644	1677	320	250	8258
	累計	5,509	149,696	55,085	32,915	18,585	261,790
購入	令和元年度末累計	1,398	12,166	267	6,975	2,520	23,326
	令和2年度計	0	10	0	0	0	10
	累計	1,398	12,176	267	6,975	2,520	23,336
製作	令和元年度末累計	115	513	95	114	471	1,308
	令和2年度計	0	38	0	0	0	38
	累計	115	551	95	114	471	1,346
所管換	令和元年度末累計	1	84	0	1,104	278	1,467
	令和2年度計	0	0	0	0	0	0
	累計	1	84	0	1,104	278	1,467
不明	令和元年度末累計	0	0	0	0	0	0
	令和2年度計	0	101	0	0	0	101
	累計	0	101	0	0	0	101
合計	令和元年度末累計	9,831	192,868	58,162	40,791	21,681	323,333
	令和2年度計	399	7,305	1,677	320	351	10,052
	累計	10,230	200,072	59,839	41,111	22,032	333,385

新規登録資料点数は生物部門が最も多く、7,305点で全体の約72.7%を占める。

地質部門では中生代の海生動物化石、岩石標本など399点を、生物部門では千葉武勝氏の二戸市稲庭岳調査関連の昆虫標本、当館と岩手県植物誌調査会が採集した植物標本など7,305点を、歴史部門では、桐原家旧所蔵の目時隆之進関係資料など320点を、民俗部門では同年に寄贈された盛岡竿やこけし、浄瑠璃本など351点を、それぞれ登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、資料登録は平成24年4月から早稲田システム開発(株)が提供するI. B. Museum SaaSにより行っている。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保



管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。このシステムを使用し、現在 917 点の当館所蔵の資料情報を公開中である。

**表 5 (4)-2 令和 2 年度の主な受贈資料**

部門	寄贈者・ (敬称略)	居住地・ 所在地	資料名	数量
地質	高橋彩也佳	盛岡市	アンモナイト	1
	山崎 浩子	宮城県南三陸町	南三陸町産囊頭類化石	1
	小田 隆	京都市	マメンチサウルスライブドローイング	1
	五井 昭一	秋田市	新第三系中新統～鮮新統舂沢層産植物化石ほか	125
	柳澤 晋	盛岡市	南極片麻岩 (記念プレート含む)	1
	齊藤 道子	北上市	北上市産珪化木	1
生物	野口麻穂子	盛岡市	押し葉標本	1
	中屋敷 徳	矢巾町	押し葉標本 (トリカブト属)	47
	守口 和	盛岡市	ワニ剥製 (メガネカイマン)	1
	佐藤	岩泉町	白まだらヘビ	1
	中屋 直哉	盛岡市	岩手県盛岡市繫産ホンドラジウムシ	11
	佐々木麻由	滝沢市	トンボ標本	13
	小山 弘子	盛岡市	フクロウ 本剥製	1
	地球環境資源センター	東京都	カワシンジュガイ・ヨコハマシジラガイ幼生及び宿主魚類の液浸標本	3
	古舘 勇一	宮古市	本剥製 (テン・マンガース・タヌキ・コブラ・ムササビ)	7
	小野 大志	青森県黒石市	昆虫標本一式	3604
武田 眞一	盛岡市	スマレ科押し葉標本	339	
歴史	—	—	屏風、陣笠、柄袋、鞭、短冊等	192
	今野 玲子	仙台市	盛岡中学校創立記念はがき	10
民俗	三上 雅弘	釜石市	大型置時計	1
	高橋 勇介	盛岡市	盛岡竿	2
	泉山 恵一	盛岡市	溪流竿	1
	大林 征機	盛岡市	盛岡竿	4

計 23 件 4,368 点

**表 5 (4)-3 資料の製作**

部門	名称	内容の概略
生物	鳥類剥製	本剥製 3 点 (カワウ・ミヤマホオジロ・キビタキ) 仮剥製 5 点
考古	西平内 I 遺跡ジオラマ製作	テーマ展に関わる展示資料として、遺跡周辺を含む 300 分の 1 のジオラマ製作

**表 5 (4)-4 機器類の保守点検と修繕**

項目	部門	機器名または内容
保守点検	歴史	マイクロリーダープリンター

項目	部門	機器名または内容
	文化財科学	文化財科学実験システム(文化財科学室、器具庫、X線分析室空気清浄化システム)、表面分析装置(蛍光X線分析装置、X線回折装置)、保存処理機器(小型真空凍結乾燥機、真空樹脂含浸装置)、博物館資料滅菌システム
修繕	文化財科学	博物館資料滅菌システム、X線回折装置、真空樹脂含浸装置、大型冷凍庫(定置式冷凍コンテナ)、カートリッジ純水器
その他	文化財科学	施設くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

## イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等とおし、他機関における活用にも積極的に協力している。

### (ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出の要請があり、実物資料については10件・186点、画像(写真)資料については67件・434点+一式の貸出を行った。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた(表5(4)-6・表5(4)-7)。

### (イ) 資料の熟覧・撮影等

コロナ禍であったため従前よりも少なかったが、他施設の職員による展示会等の事前調査や研究者による収蔵資料の熟覧・撮影希望も13件・157点あり、これらの業務に各部門で対応した(表5(4)-8)。

表5(4)-6 資料の貸出

担当部門	貸出先(所在地)	資料名	数量
地質	奥州市牛の博物館	鯨類肋骨片化石、オンマイシカゲガイ化石、タカハシホタテ化石、ツメタガイの一種化石、ホソバイチョウガニ化石、広葉樹葉化石、ブナの葉化石、カバノキ?属の一種の葉化石、ヒメマスオ化石、ゴイサギガイ化石、オウシュウイヌスギ葉化石、ヒトデ類化石、センスガイの一種、生痕化石、 <i>Buccim? Nossarius sp</i>	22
生物	福田知子	クロクモソウ、フキユキノシタ、エゾクロクモソウ、エゾノクロクモソウ	27
考古	北海道環境生活部文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室	盛岡市手代森遺跡出土遮光器土偶(復元製作品)	1
	北上市立博物館 和賀分館	北上市和賀町愛宕山遺跡出土資料(当館発掘資料)	6
歴史	一関市博物館	太刀 銘 助実、脇差 銘 備州長船盛光、刀 銘 備前国住長船次郎左衛門尉勝光、短刀 銘 来国俊、短刀 銘 信国、刀 無銘(左国弘)、刀 無銘(直江志津)、銀装衛府太刀拵、石目塗鞘太刀拵、雲門朱漆石目地塗短刀拵、石目地塗家紋散鞘合口拵、短刀 無銘(貞宗)、その他(刀架)	12
	釜石市文化スポーツ部世界遺産課	釜石鉾寮之図、釜石官営製鉄所部分図	2
	岩手県立美術館	マイクロフィルム(岩手日報:大正15年、昭和3年7月～昭和4年12月、昭和6年5月～昭和15年12月、昭和18年1月～昭和23年12月)(岩手毎日:昭和3年4月～昭和8年4月)	107
	秋田市立佐竹史料館	稚児鎧(体験用甲冑レプリカ武田信玄・黒田官兵衛)	2
民俗	盛岡市教育委員会歴史文化課	民謡CD(湯田町、大野村、盛岡市、旧玉山村、軽米町、二戸市)	6
その他	岩手県北広域振興局二戸農林振興センター林務室	移動展用展示ケース	1

計10件 186点

表5(4)-7 画像資料の貸出

部門名	貸出先	資料名	点数
地質	丸山株式会社	マメンキサウルス全身骨格標本	1
	株式会社NHK エンタープライズ	恐竜モシリユウの上腕骨	1
	八五八六商店株式会社	マメンキサウルスの復元全身骨格モシリユウ上腕骨	2
	株式会社ベネッセコーポレーション	ハナイズミモリウシ	1
	北上市	竜の口動物群を構成する貝類化石、北上市鈴鴨川支流ヨリ沢、竜の口層、東北地方の地殻東西断面（自然史展示室の断面模型） キヌガサソウ	12
	株式会社 創元社	シルル紀のサンゴ化石	1
生物	映像制作 Y.M.O	ニホンオオカミ頭骨	1
	NHK盛岡放送局	コブシの花	1
	岩手県環境生活部自然保護課	絶滅危惧植物	1
	株式会社 福音館書店 月刊誌編集部	オキナグサ	1
	一般財団法人 自然環境研究センター	絶滅危惧植物	5
考古	株式会社 KADOKAWA	葦内遺跡出土大型土偶頭部	1
	福島市	葦内遺跡出土大型土偶頭部・手代森遺跡出土遮光器土偶	2
	株式会社 KADOKAWA	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	テレビ朝日映像	岩手町豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	石塚 崇	葦内遺跡出土大型土偶頭部	1
	株式会社 雄山閣	柱状土層 (To-a テフラ)	1
	盛岡市中央公民館	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社フォト・オリジナル	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	一般社団法人 次世代漆協会	上米内遺跡出土 ヒスイ製勾玉、同遺跡出土 土製耳飾り、葦内遺跡出土漆塗り櫛レプリカ	3
	株式会社コールサック社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社かみゆ	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	中央出版株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社フジテレビジョン	総合展示室 いわたの夜明け	1
	中央出版株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶 (春期)	1
	サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社	豊岡遺跡出土注口土器	1
	北海道環境生活部文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	NHK 大阪拠点放送局	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	竹倉土偶研究所	一関市寺場遺跡出土土偶	1
	株式会社フォト・オリジナル	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社 NHK グローバルメディアサービス	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	埼玉県立歴史と民俗の博物館	長谷堂貝塚出土クマ牙製垂飾品	1

部門名	貸出先	資料名	点数
歴史	読売新聞盛岡支局	明治三陸大津波被災地を写したガラス乾板	15
	小原祐子	三閉伊日記	1
	岩手日報社	明治三陸津波ガラス乾板	1
	株式会社 美和企画	太刀 銘 助実 (全体、鋒、茎)	3
	盛岡市遺跡の学び館	鯨尾兜	1
	株式会社 天夢人	太刀 銘 助実 (全体、鋒、茎)	3
	株式会社 ホビージャパン	太刀 銘 助実 (全体、鋒、茎)	3
	笠原雅史	出征のぼり、出征の様子、戦時繊維ヲ集メマセウ、防衛食器、盛岡空襲の葉莢と砲弾破片、岩手県内の空襲被害、聞け！サイパンの声なき声を、公債生活維持強調週間、錦絵「上野山内一覽之図」	9
	金ヶ崎町教育委員会	前九年合戦図屏風、前九年衣川大合戦、衣川ノ柵ニ両雄和歌ヲ詠ス	4
	NHK 制作局	私残記、大村氏絵家系図	7
	株式会社 国書刊行会	「岩手を旅した絵師の足跡」12-25、14-16、14-17	3
	釜石市文化スポーツ部文化振興課	佐々木家文書	252
	岩手日報社	明治三陸津波ガラス乾板	1
	東京家政学院生活文化博物館	明治丙申三陸大海嘯之實況	1
	一般財団法人 歴史民俗博物館振興会	岩手県立博物館図録 (よろい・かぶと・かたなの世界) の表紙	1
	雫石町教育委員会事務局生涯学習スポーツ課	雫石町延宝8年(1680)の塔碑文	1
	玉澤友基	太田コレクション「夢庵藏鈎」	一式
	東京書籍株式会社	俵物 (ふかひれ、煎海鼠、干鮑)	3
	盛岡市都南歴史民俗資料館	花菖蒲に蝶図鐔 銘 盛岡住立花孝家造、鯨尾兜	2
	株式会社ネクサス	大槌燭屋鍛冶絵巻	1
	株式会社テレビ朝日	鯨尾兜	1
	石井たま子	大槌燭屋鍛冶絵巻	1
	山田町教育委員会	山田浦海岸之図 (佐々木藍田)、金沢御山大盛之図 (佐々木藍田)、佐々木藍田関係資料 (藍田自画像)	25
	特定非営利活動法人 LANP	米崎村普門寺大伽藍図 (蓑虫山人)	1
	株式会社山と溪谷社	谷文晁『日本名山図会』	2
	株式会社講談社 第一事業局学芸部 学術図書編集	毛越寺の復元模型	1
	民俗	古関裕平	漆絵、乾漆花器、帽子掛けこけし、えじここけし、こけし
Sumai 事務局		曲り屋・直屋	1
陸前高田市立博物館		猫淵神社関係写真 (研究報告書第28冊「森口多里が遺した昭和の記憶I」)	7
東京書籍株式会社		曲り屋	1
乗富 純		民家 (旧佐々木家住宅)	1
盛岡短期大学部 菊池直子		及川全三のホームズパン	10

部門名	貸出先	資料名	点数
	株式会社 秀学社	仏間に飾った盆棚、麦殻で焚く迎え火の準備	2
	岩手県立図書館	オシラサマ（貫頭衣）、繫馬図	2
文化財 科学	株式会社盛岡タイムス社	被災した古文書の初期処置状況写真、被災した押し葉標本の初期処置写真	2

計 67 件 合計点 434 点+一式

**表 5 (4)-8 資料調査の熟覧・撮影**

担当部門	資料名	点数
地 質	ミズホクジラ全身骨格、マエサワクジラ全身骨格・産状模型、ミズホクジラ標本箱・大石雅之氏、ハナイズモリウシ全身骨格、キンリュウオオツノヅカ掌状角、ミズホクジラ全身骨格・望月・大石氏、モシリユウ上腕骨レプリカ	8
	気仙隕石、気仙隕石偏光顕微鏡写真、花崗岩（一関市大東町早麻山産）、岩手県地質図	4
	ハナイズモリウシ、偶蹄類の足跡（奥州市水沢）、オオバタグルミ	4
生 物	ヒロハノトサカモドキ、ホソアヤギヌ、タワラガタシオミドロ、ベンテンモ、アカバギンナンソウ ほか	60
考 古	大日向Ⅱ遺跡出土 後北 C2—D 式土器	1
	柳野御所遺跡出土資料 折敷（寝殿造・人々給絹日記 表・裏）、呪符、かわらけ（人面墨書・えくねゑ）、鉄花瓶、鉄火舎	7
歴 史	女鹿家文書	24
	橋野高炉絵巻（模写）、釜石鉦山寮之図、釜石官営製鐵所部分図	3
	女鹿家文書②	24
民 俗	駒形神社所蔵絵馬	10
	東芝電気洗濯機 FW 型	1
	背当て、ワラダ	6
	盛岡竿	5

計 157 点

**(ウ) 収蔵資料目録の刊行**

「岩手県立博物館収蔵資料目録第 28 集 生物 VIII 哺乳類・鳥類」を刊行し、PDF を公式ホームページで公開した。当館生物部門及び地質部門が令和 2 年度末までに登録した哺乳類・鳥類の全標本 944 件の情報を掲載した。

## ウ. 文化財科学部門

岩手県立博物館には、先人から伝えられた貴重な文化財や、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えるとともに、資料が有するさまざまな情報を自然科学的方法で解析し読み解くことを目的として、文化財科学部門が設置されている。

### (ア) 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を整える必要がある。岩手県立博物館では、収蔵庫及び展示室に温湿度記録計を設置し、継続的に温湿度変化を観察している。その結果にもとづき空調機を制御し、さらに必要に応じて除湿機や加湿器を使用しながら、展示室、収蔵庫内の温度を 21～23℃、湿度を 50～60%に維持することに努めている。なお、特に精密な湿度管理を施す必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを活用している。

また、資料劣化に係る化学物質（ギ酸、酢酸、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、アンモニア）の濃度を定期的に確認し、基準値を超過する箇所については活性炭等の吸着剤を使用して低減を図るなど安定化に努めている。

なお、劣化が進んだ出土金属製品や木製品については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

### (イ) 生物学的劣化からの防除

紙製品、木製品、繊維製品、自然史標本等有機物を素材とする資料は、虫やカビにより汚損される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫やカビが付着している可能性があり、有害生物を駆除することなく収蔵庫や展示室に運び込んだ場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫やカビから資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌装置でくん蒸を行っている。令和 2 年度の滅菌装置によるくん蒸実施状況は、表 5 (4)-9 に示すとおりである。

表 5 (4)-9 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部門	資料種別	数量	単位	備考
民 俗	人形等	25	箱	テーマ展借受資料等 大型時計、竿、掛軸、古文書、演 示具等
	その他	38	件	
生 物	押し葉標本	40	箱	
	昆虫標本（ドイツ箱入）	108	箱	
	剥製、毛皮等	13	件	
	寄贈図書	1	箱	
歴 史	文書類等	6	箱	テーマ展借受資料 着物等
	その他	5	件	
被災資料	陸前高田市立博物館所蔵紙製資料	65	箱	

令和 2 年 9 月 1 日から 10 日まで、密閉くん蒸法により、第 1・第 2・第 3・第 4 収蔵庫、歴史・古美術整理室及び第 2 資料登録室、書庫、No.4 倉庫（第 2 書庫）、総合展示室、いわて文化史展示室、特別展示室、いわて自然史展示室をくん蒸した。その後、有害な虫やカビの発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚及び展示ケース上部に固着する塵埃の除去を行った。なお、令和 2 年 7 月及び 10～11 月には館内の害虫生息調査及び浮遊菌調査を、12 月及び令和 3 年 2 月には浮遊菌調査を実施している。

令和 3 年度についても、有害な虫やカビの発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

## (5) 総務企画調整

### ア. 総括出版広報

#### (ア) 印刷物

##### a. 博物館だより

- 165号 目次／展示物の紹介 コスタクリメニア 表紙／館長挨拶 岩手県立博物館 40周年を迎えて p.2-3／開館 40周年記念 岩手県立博物館 展覧会の歩み p.4-5／活動レポート 岩手県立平舘高等学校との連携プロジェクト 活動レポート チャレンジ!はくぶつかんの令和元年度皆勤賞受賞者 p.6／活動レポート トピック展「お雛さま」と「五月人形」 事業報告 MORIOKA 神保町ヴンダーカンマーの共催 p.7／インフォメーション p.8
- 166号 目次／テーマ展 個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～表紙／いわて文化ノート 岩手のウォール街「中ノ橋通」 p.2-3／展覧会案内 テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」 p.4-5／解説員室より いわてを探りにいらっしやいませんか?／活動レポート トピック展「縄文時代のアクセサリー」 p.6／活動レポート トピック展「カラフルな夏鳥たち」／活動レポート トピック展「盛岡竿」 p.7／インフォメーション p.8
- 167号 目次／テーマ展 いわての政治物語―幕末・明治・大正―表紙／いわて自然史ノート オオセッカと東日本大震災 p.2-3／展覧会案内 テーマ展「いわての政治物語―幕末・明治・大正―」 p.4-5／活動レポート いわて文化史展示室(民俗)の展示替え資料／活動レポート 環状列石の調査「洋野町西平内I遺跡」 p.6／活動レポート 新型コロナウイルス感染症関係資料の収集・展示／活動レポート 第80回自然観察会「碓氷海岸の秋の生き物観察」 p.7／インフォメーション p.8
- 168号 目次／テーマ展「縄文いわての環状列石」表紙／エッセイ 被災資料の寄贈を受けて ～東日本大震災被災資料からみえてくる願い～ p.2-3／展覧会案内 テーマ展「縄文いわての環状列石」 p.4-5／事業報告 テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」イチ押し役者総選挙 投票結果／活動コラム「ハクガン」の描かれた背景幕が教えてくれたもの p.6／事業報告 第80回地質観察会「釜石市に見られる古生界の岩石と化石」／活動レポート 南部鉄器ゴジラ特別展示 p.7／インフォメーション p.8

##### b. 令和元年度岩手県立博物館年報

令和2年5月1日発行 (A4判相当PDF版、78頁、ホームページ掲載)

##### c. 行事案内リーフレット

令和2年度下半期分 (B4変形・巻四ツ折、26,000部、令和2年9月発行)

令和3年度上半期分 (B4変形・巻四ツ折、26,000部、令和3年4月発行)

##### d. 子供向け行事案内リーフレット

(令和元年に、「いわはく子ども新聞」と統合し発行した)

##### e. いわはく子ども新聞

令和2年4月発行 (A4・65,000部)

新型コロナウイルスの拡大感染を受けて発行を停止した

令和2年7月発行 (A4・65,000部)

令和2年12月発行 (A4・65,000部)

令和3年3月発行 (A4・65,000部)

※これまで二戸市～奥州市の小学生を対象として配布していたが、令和2年度は全県の小学生を対象に配布した。



## (イ) 広報活動

### a. 当館独自の広報

#### ①定期発行

イベントガイド（毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約 2,000 部）

行事案内リーフ（年 2 回、公共施設および観光施設等配布、26,000 部）

「いわはく子ども新聞」（年 4 回、全県の小学校等に配布、65,000 部 但し令和 2 年度は 4 月分の発行を見送った。）

#### ②不定期発行

展覧会等、各事業別ちらし（随時） ほか

### b. その他の公所

教育記者クラブ、日博協、全科協、県観光協会、盛岡観光コンベンション協会、県庁広聴広報 等

### c. 新聞各社への情報

胆江日日新聞、東海新報、岩手日日新聞、デーリー東北、盛岡タイムス、秋田魁新報、いわにちリビング 等

### d. ミニコミ誌等

acute、Amuse、AREAi、情報誌游悠、rakra、松園新聞、まいぷれ盛岡編集部、岩手の子育て情報誌 fam 等

## イ. 情報機器の管理

令和 2 年度は、職員が使用するノートパソコン 1 台の修理を行った。更新した情報機器は無かった。

## ウ. 委員会等職員派遣

表5(5)-1 令和2年度外部団体等への委員の派遣一覧

No.	月日	委嘱元	委員会等名称	内容	派遣職員
1	4月14日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	辞令交付、調査計画検討	渡辺修二
2	4月16日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	チョウセンアカシジミ調査	渡辺修二
3	6月9日	大船渡土木センター	大船渡地区希少野生動植物調査検討委員会	河川掘削工事に先立つ現地確認	鈴木まほろ
4	7月7日	八幡平市博物館	八幡平市博物館協議会	八幡平市博物館の事業予定について	木戸口俊子
5	7月7日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	チョウセンアカシジミ調査	渡辺修二
6	7月9日	釜石市教育委員会	釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会	同左 令和2年度第1回	丸山浩治
7	7月10日	岩手県教育委員会	教育振興運動推進幹事会	教育振興運動の今年度事業について	木戸口俊子
8	7月15日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	文化財の保存と活用について	渡辺修二
9	7月15日	大船渡土木センター	大船渡地区希少野生動植物調査検討委員会	樹木伐採工事に先立つ現地確認	鈴木まほろ
10	7月30日	北上土木センター	北上地区希少野生動植物保護検討委員会	河川工事に先立つ現地確認	鈴木まほろ
11	7月31日	北上市道路整備課	北上地区希少野生動植物保護検討委員会	道路工事に先立つ現地確認	鈴木まほろ
12	8月4日	北上土木センター	北上地区希少野生動植物保護検討委員会	河川工事に先立つ現地確認	鈴木まほろ
13	8月19日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境保全指針改定検討委員会	同左 第6回	鈴木まほろ
14	8月20日	北上土木センター	北上地区希少野生動植物保護検討委員会	河川工事に先立つ現地確認	鈴木まほろ
15	8月21日	大船渡保健福祉環境センター	大船渡地区希少野生動植物調査検討委員会	同左 第30回	鈴木まほろ
16	8月25日	北上土木センター	北上地区希少野生動植物保護検討委員会	河川工事に先立つ現地確認	鈴木まほろ
17	8月28日	青森県環境生活部環境保全課	青森県環境影響評価審査会	風力発電1件の審査	高橋雅雄
18	9月4日	北上市史編さん室	北上市史編さん委員会自然部会	同左 第9回	鈴木まほろ
19	9月8日	農林水産省東北農政局	和賀中央地区環境配慮検討委員会	同左	渡辺修二
20	9月11日	岩手県環境生活企画室	岩手県環境審議会	同左 第44回	鈴木まほろ
21	9月23日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会	同左	鈴木まほろ
22	10月16日	岩手県環境生活企画室	岩手県環境審議会	同左 第45回	鈴木まほろ
23	11月4日	北上市史編さん室	北上市史編さんに係る事務調整会	同左	渡辺修二・鈴木まほろ

No.	月日	委嘱元	委員会等名称	内容	派遣職員
24	11月13日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境保全指針改定検討委員会	同左 第7回	鈴木まほろ
25	11月27日	環境省東北地方環境事務所長	東北カワウ広域協議会	同左 令和2年度	高橋雅雄
26	11月28日	釜石市長	釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会	橋野鉄鉱山世界遺産登録5周年記念シンポジウム	丸山浩治
27	12月1日	金ヶ崎町生活環境課	生物多様性かねがさき地域戦略推進協議会	同左	鈴木まほろ
28	12月7日	岩手県高等学校教育研究会理科部会 岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部	第67回岩手県高等学校理科研究論文審査会及び第43回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究論文審査会	論文の審査	渡辺修二
29	12月22日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック検討委員会	同左	渡辺修二・鈴木まほろ
30	1月22日	東北森林管理局	早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況等調査検討委員会	同左	鈴木まほろ
31	1月29日	岩手県環境生活部自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会	同左	鈴木まほろ
32	2月5日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会及び県環境審議会	同左	鈴木まほろ
33	2月16日	八幡平市博物館	八幡平市博物館協議会	八幡平市博物館の事業成果について	木戸口俊子
34	2月18日	青森県環境生活部環境保全課	青森県環境影響評価審査会	風力発電1件の審査	高橋雅雄
35	2月18日	釜石市教育委員会	釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会	同左 令和2年度第2回	丸山浩治
36	2月25日	岩手県知事（担当部局：総務部）	第1回岩手県東日本大震災津波関連行政文書保存検討委員会	東日本大震災関連行政文書保存のガイドライン策定	目時和哉
37	3月17日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県自然環境保全指針改定検討委員会	同左 第8回	鈴木まほろ
38	3月17日	青森県内水面漁業協同組合連合会	令和2年度内水面水産資源被害対策事業広域連携カワウ被害管理対策事業に係る津軽地区検討会	同左	高橋雅雄
39	3月24日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック検討委員会	同左	渡辺修二・高橋雅雄・鈴木まほろ
40	3月24日	岩手県環境生活部自然保護課	希少野生動植物保護検討委員会	同左	鈴木まほろ
41	3月25日	青森県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会	同左 第87回	鈴木まほろ
42	3月29日	滝沢市教育委員会文化振興課	滝沢市文化財調査委員会	同左	渡辺修二

## エ. 外部助成

研究助成 令和2年度は、外部助成として2件の採択があった。

表5(5)-2 令和2年度外部助成金採択状況

	氏名	部門	関連事業・研究テーマ名等	助成の名称	金額	申請先
1	高橋雅雄	生物	湿性草原の生物多様性保全における耕作放棄地の生態的価値：越冬鳥類を指標とした評価	科学研究費助成事業	429万円 (R2年度169万円)	独立行政法人日本学術振興会
2	鈴木まほろ	生物	市民団体協働による早池峰山におけるニホンジカの影響調査と市民講座の開催	全国科学博物館活動等助成	45万円	(財)全国科学博物館振興財団

## (6) 岩手県立博物館の新型コロナウイルスへの対応について

### <流行当初における対応>

令和元年末頃から中国をはじめとする諸外国で新型コロナウイルスの流行が報じられるようになり、岩手県内では令和2年1月末頃に海外からのツアー客の客足が途絶えた。それと前後するようにイギリス船籍のクルーズ船、ダイヤモンド・プリンセス号の乗客の中に発熱者が報告され、後に新型コロナウイルスに感染していることが確認された。この頃岩手県内での罹患者は皆無だったが、来館者と触れる機会の多い解説員がマスクやフェイスシールドの着用をいち早く始め、「体験学習室」の利用に際し、入室時の手洗いのお願いと用具使用後に解説員による消毒作業が行われるようになった。

行事、イベントについては2月までは予定通り開催されたが、令和2年2月末時点で3月の「たいけん教室(3回)」、「ミュージアムシアター(1回)」を中止とし、「日曜講座(3月8日分)」を延期と決定した。展覧会については令和2年3月14日よりテーマ展「化石の水族館」が開始されたが、東京都などでの感染者の増大を受け、ハンズオン展示について一部を撤収し、展示を継続するものは展示方法を変更した。

令和2年3月に入り新型コロナウイルスが収束する気配が見えないことから、テーマ展「化石の水族館」に関する日曜講座「恐竜好き少年が魚類化石研究者になりました(講師:城西大学水田記念博物館学芸員・宮田真也氏、3月28日開催予定)」が一旦5月3日に延期され、その後感染拡大に伴って中止となった。展覧会担当学芸員による日曜講座は4月26日に予定されていたが、こちらも中止された。

### <令和2年度開館に際して>

ゴールデンウィーク期間については、県の措置に倣って4月25日から5月6日まで臨時休館とした。開館に際しては、感染症拡大防止に努め、様々な対応策をとった。入館者に対しては、入口での手指のアルコール消毒とともに、受付でサーモグラフィによる体温のチェックとマスクの着用をお願いした。なお、マスクの準備の無い入館者には受付で配布できるようにしたが、乳幼児など当館利用者の多くを占める小さな子どもたちについてはその限りではない。受付およびミュージアムショップカウンター、サービスコーナーには透明シートを設置し、館内の来館者が直接触れるような場所では解説員および清掃業者によって、随時消毒を行った。また、各階トイレ前や特別展示室前、映像室前など、各所に手指用アルコールを設置しいつでも利用できるようにした。

学校等の団体に対して館内の見学は分散して行うように求め、展示の解説についても大人数にはなく、20人程度の集団に分割するとともに時間制限を設けて実施した。

### <展覧会関係>

2月末から首都圏で新型コロナウイルス罹患者が急増し、岩手県での患者の報告は無かったものの隣接する青森県や宮城県では感染者の発生が報告されていたため、6月半ばからを予定していた開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」の開催が危ぶまれるようになった。展覧会を開催することで多くの人を集めることになることと、この展覧会では東京などから多くの資料を借り受けする予定があり、借り受けに行けるのか、また借り受けに行った場合担当者は2週間の自宅待機を義務づけられるのかなどの懸念が生じ、4月28日付で開館40周年記念特別展および関連行事はすべて中止することとした。この時点では展覧会をすべて中止とするか翌年に延期するかは予算措置のこともあり決められず、後日検討することとなった。なおこの中止に伴いテーマ展「化石の水族館」は、会期が5月6日までの予定を8月23日まで延長することとした。

秋以降の3本の展覧会は、会期や展示資料・展示方法など一部変更となったが開催することができた(詳細は前述)。また、展示解説会や関連講演会などは、事前予約や人数制限をするなどして3密状態にならないよう実施したが、実施日直前での変更が生じ、広報が間に合わずに一部混乱を招いた部分もあった。

### <イベント関係>

単発イベントである「バックヤードツアー(5月)」、「古文書入門講座(6月)」、「ナイトミュージアム(8月)」、「ヒストリックカー&クラシックカーミーティング(10月)」は感染状況を鑑みて、協議の結果中止とした。

「博物館まつり(10月)」は実施する前提で準備を進めてきたが、不安材料が拭えないということで規模を縮小した行事(博物館プチまつり)へと変更し、最終的には一部の行事(チャンバラ合戦)のみを実施した。実施期日も当初予定の10月11日から11月3日へと変更して「まつり」の呼称は使用しなかった。

「冬のワクワク!ワークショップ」は定員を設定して実施した。

毎月第2、第3土・日曜日に実施している「チャレンジ!はくぶつかん」は感染拡大の要因にはなりにくいと判断し、開館している限り予定どおり実施した。

「たいけん教室」は6月中旬まで中止としたが、それ以降は定員5名として実施した。

県博日曜講座は、開館40周年記念特別展関連の6月～8月分が展覧会中止とともに全て中止となり、9月から再開した。聴講者の人数に関わらず全て講堂で開催することとし、収容人員140名に対して50名までの入場制限を行った。同様に講堂で実施しているミュージアムシアターについても定員を50名とし7月から再開した。

<展示室以外の施設利用について>

「たいけん学習室」は年度当初、感染拡大を防ぐための解説員による消毒作業が煩雑すぎることと、利用者の集中による感染拡大を避けるため一時閉鎖された。しかし、ゴールデンウィーク以降は利用の希望が多かったため平日に限り利用可能とした。但し祝祭日と夏休みなど学校の長期休業期間中は閉鎖している。なお、入室の際はたいけん学習室入り口での手洗いと手指の消毒をさらにお願した。

「映像室」についても入場者数を制限し、その人数管理と上映中の暗い室内における来館者同士不用意な接近を避けるため、途中入場を原則禁止とした。上映後はその都度解説員による座席シートのアルコール消毒を行った。

2階にある喫茶「ひだまり」では、手指消毒用アルコール設置をはじめ、机の配置の変更やアクリル板の設置などを行い、利用できるよう工夫していただいた。

<館外イベント>

「地質観察会」、大船渡など沿岸部で予定していた「自然観察会」は野外での行事で感染要因になりにくいことと、開催予定が夏であり年間計画立案時にはまだ時間的余裕があることから感染状況を暫く窺っていた。しかし南三陸町での実施を予定していた「第79回地質観察会」はそれまで宮城県仙台市を中心として感染者が増えていたものが石巻・気仙沼方面でも感染者が発生したとの報道を受けて中止することとした。自然観察会は予定していた期日を遅らせ、感染拡大の収まり具合を見ながら限定的に広報し、募集人数も例年より減らすなどの措置を講じて例年どおり2回実施した。「第80回地質観察会」は10月の実施予定で感染拡大の収まりが見込まれたことから予定どおり実施した。

## 6. 被災文化財等再生活動

### (1) はじめに

2011年3月11日に発災した東日本大震災によって、東日本太平洋沿岸部に立地する博物館、学校、宗教法人などの施設自体はもとより、それらの機関や個人が所有する膨大な数の文化財、自然史標本、その関連資料等が被災した。未曾有の大規模自然災害発生を受け、岩手県立博物館（以下、当館という。）では、2011年4月2日から今日まで、岩手県太平洋沿岸部で被災した様々な資料の救出とその再生に取り組んできた。

救出された資料を再生するには、津波によってもたらされた資料劣化を誘因する有害物質（塩分やタンパク質、脂質など）を除去し、資料を長期にわたり安定した状態で保管できる状態にする安定化処理が不可欠である。そこで当館では、全国の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携しながら試行錯誤を重ね、その安定化処理方法を構築し、被災資料の再生を図ってきたところである。

岩手県太平洋沿岸部から救出された資料は概ね50万点にのぼる。今日までに、このうちの26万点余りについて安定化処理が施されたが、残る約24万点は未だ救出されたままの状態と保管されている（陸前高田市所管資料）。それらの中には水への浸漬が困難なため、新たな措置方法を構築して対処しなければならない資料が相当数存在する。また、安定化処理を施した資料であっても、津波で被災した資料の再生法は国際的に未確立であるため、保管の過程で状態に変化が生じないかどうかを当分の間注意深く経過観察する必要がある。震災から10年が経過したが、被災文化財等の再生活動はまだ途上であり、今後も長期的な対応が求められる。

本章では、当館が2020年度に行った取り組みについて報告する。

### (2) 被災文化財の再生

当館では、陸前高田市立図書館から最初に救出された岩手県指定文化財『吉田家文書』及びその関連資料に対し、除泥、除菌、脱塩を基本とする安定化処理を2011年4月5日に開始して以来、紙を素材とする資料などに対して今日まで継続的に安定化処理を行ってきた。当館に搬入された被災資料のうち、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市の5市町の資料については2019年度末で措置を完了した。しかし、最も被害の大きかった陸前高田市所管の資料約24万点が未処理のまま残されており、その処理を日々進めている。

2020年度に当館で実施した安定化処理及び修理は表6（2）に示すとおりである。

表6（2） 2020年度の安定化処理及び修理の実施状況

	件名	件数
1	被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1
2	被災自然史関連資料修理業務	1
3	被災昆虫標本修理業務	1
4	被災鳥羽源藏コレクション安定化処理及び修理業務	1
5	被災民俗資料安定化処理業務	1
6	被災考古資料安定化処理及び修理業務	1

安定化処理の方法として、2016年に医療用中性洗剤を用いたタンパク質や脂質の洗浄・除去工程を新たに加えて以降、異臭や変色等の異常発生は確認されていない。しかし、中性洗剤の使用は、その残留を防ぐための十分なすすぎ工程が不可欠であり、場合によっては資料に負担をかけることに繋がる。このため、中性洗剤の使用量は極力少ないほうがよい。これまでは0.5%水溶液を基本としてきたが、2019年度末に東京文化財研究所の指導の下で共同調査を行い、2020年度からは0.3%に減じて洗浄作業を実施している。これによる不具合は現在のところ確認されていない。今後も当分の間経過観察を実施し、より安全で効率的な安定化処理方法の構築に努めていく。

東日本大震災以降、台風や集中豪雨による水害が多発しており、これにより文化財等が水損する被害が全国各地で発生している。令和2年7月豪雨では球磨川が大規模に氾濫し、熊本県大津市で大量の植物標本が被災した。当館ではこの資料の一部を受け入れて冷凍保管し、少しずつ洗浄作業を進めている。

### (3) 被災文化財再生技術の普及

2014年5月、岩手県立博物館を中核館、東京国立博物館、陸前高田市立博物館、公益財団法人日本博物館協会、NPO法人文化財保存支援機構を主要構成機関とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」(以下、プロジェクト実行委員会という。会長 岩手県立博物館長)が結成された。この組織は、「被災文化財の再生を効率的に進めるための組織連携の構築」、「活動に対する理解の醸成」、「技術の共有と普及」、「大規模自然災害への備え」、「被災した博物館の復興支援」を主な活動の目標に掲げ、文化庁の助成を受けながら、特別展、ワークショップ、講演会・シンポジウムをはじめとする様々な事業を行ってきた。

2020年度も安定化処理技術の普及・定着のための関連事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症が社会全体を揺るがす中、本事業もまたその影響を免れ得ず、上半期は人の移動を伴うすべての事業を自粛した。下半期は、当初の計画を大幅に変更し、感染防止対策を徹底しながら、東京家政学院大学(2020年10月6日～10月23日、11月9日～2021年2月5日)と大阪市立自然史博物館(2020年10月16日～11月29日)で特別展を開催した。二会場で合計約23,000人の来場者数を数え、オンライン公開のギャラリートークは約250回の視聴を得た。

大阪市立自然史博物館では、11月22日にワークショップとオンラインシンポジウムも開催した。ワークショップは参加者を12名に限定し、「水損文献資料レスキュー実技講習会」と題して水損した紙製資料に対する最も一般的な応急処置法の一つであるスクウェルチ・パッキング法を全員が習得した。「自然史標本レスキューの現在地点とこれから」と題したオンラインシンポジウムは、Zoomでのリアルタイム参加者77名、youtubeでの事後視聴回数721(推定ユニーク視聴者345名)を数え、事前と事後をあわせると計画段階における二会場合計の講演会想定参加者数の4倍を上回る



図1 特別展「復興から未来へ～博物館と地域のこれから～」(東京家政学院 生活文化博物館)



図2 オンラインシンポジウム「自然史標本レスキューの現在地点とこれから」(大阪市立自然史博物館)



方に視聴していただくことができた。さらに、4つの大学の博物館学の講義の中で当該動画を使用していただいた。

この他、国際発信のための関連事業として、NPO 法人文化財保存支援機構の工房で行われた陸前高田市立博物館所蔵版画・水彩画資料の安定化処理工程を記録し、日英二か国語版でDVDを製作した。この映像は、日本博物館協会ホームページ上でも公開している。

#### (4) 被災地支援

被災地では発災以降、被災文化財等の再生活動が連綿と続けられてきた。救出された資料の再生は、安定化処理を中心に技術的に対処可能な資料を対象に進められてきたが、活動開始後10年が経過した現状において、より難度の高い技術を要する資料や作業が多く残され、それらに対する措置を施す必要が生じている。被災地において長期的に持続可能な活動を実現するためには、被災文化財等再生技術の更なる向上と、再生の取り組みとその重要性に対する地域の理解を醸成することが必要であり、プロジェクト実行委員会ではその支援も行ってきた。

2021年1月21日、被災地における活動の技術支援を目的とした支援ワークショップを陸前高田市立博物館で開催した。岩手県立博物館で紙製資料の修復を担当している職員が講師となり、陸前高田市立博物館で被災資料再生の取組に従事している職員22名を対象に、喫緊の課題として挙げられた裏打ちを伴う紙製資料修復法の技術共有を行った。参加者の満足度は100%であった。

2021年1月27日に陸前高田市立博物館において、同市立横田小学校6年生全員を対象とした見学会を実施した。3密回避のため合計14名という小規模校を対象とした実施とせざるを得なかったが、参加者の満足度は100%であった。



図3 支援シンポジウムの様子



図4 地元小学生を対象とした見学会

#### (5) 今後の課題

2021年3月で発災から10年が経過した。これまで、被災地と当館、そして全国の専門機関が連携し被災資料の再生を進めてきたが、県内で最も被害数が多かった陸前高田市の所管資料は未だ半分以上に手が付けられず、救出されたままの状態でも保管されている。その中には、水洗不能な資料など、現在の技術では処理が困難なため保留扱いとされたものが相当数含まれている。

一方で、震災後頻発している自然災害によって、残念ながら毎年のようにどこかで文化財等が被災している。

これらに対してどのような措置を講じていくことができるか。当館では、これまで被災資料再生に従事してきた専門機関との連携を今後も図りつつ、残された資料の再生と被災した博物館の復興支援を図るとともに、今後も起こり得る大規模自然災害に対する備えの啓発と、被災資料を安全に処理しうる汎用的な方法の構築にさらに取り組んでいきたいと考えている。皆様には引き続き御支援をお願いしたい。

## 7. 岩手県立博物館友の会

### (1) 概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。高齢会員の退会などがあり、会員数は減少傾向にあるが、40歳代～60歳代の新規会員も少数ではあるが入会している。また、団体会員・賛助会員の増員を今後も望むところである。

友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

### (2) 会員数

令和2年度会員数	合計	229件	427人	(令和元年度 265件・481人)
一般会員	143件	143人		(令和元年度 165人)
家族会員	66件・	227人		(令和元年度 77件・255人)
小中高会員		0人		(令和元年度 0人)
終身会員		25人		(令和元年度 25人)
賛助会員	15件・	27口		(令和元年度 17件・30口)
団体会員	5件			(令和元年度 6件)

### (3) 主催事業

#### ア. 現地見学会

中止

#### イ. 野外観察会

(ア)第1回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「昆虫採集を楽しもう！」

7月5日(日) 参加者 17人

講師 博物館研究協力員 千葉武勝氏

(イ)第1回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「歌津魚竜のふるさとを訪ねて」

中止

(ウ)第2回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「釜石市に見られる古生界の岩石と化石」

10月25日(日) 参加者 19名

講師 専門学芸員 望月貴史氏

#### ウ. 話のサロン（講演会）

(ア) 第1回「美しい三陸海岸の自然～写真で見る震災前とあと～」

9月12日(土) 参加者 41人

講師 岩手山地区パークボランティア連絡協議会 阿部丕顕氏

**(イ) 第2回「近世以前の岩手の製鉄-築炉技術の進化」**（県博日曜講座）

12月13日（日） 参加者 23名

講師 学芸第一課長 小山内透氏

**(ウ) 第3回「岩手山の江戸時代の噴火-古文書と火山灰から復元する」**

令和3年2月20日（土） 参加者 43人

講師 岩手大学客員教授 土井宣夫氏

**エ. 会報発行等**

**(ア) 「友の会会報」発行（A4版8頁、300部）**

3回（No.118～120）発行（4, 7, 2の各月）

**(イ) 「友の会通信」発行（A4版両面刷り2頁、300部）**

3回（No.123～125）発行（6, 9, 12, の各月）

**(ウ) 「岩手県立博物館だより」発送**

年4回発送（No.165～168）（6, 9, 12, 3の各月）

**(エ) 「岩手県立博物館行事案内」発送**

年2回（4, 9各月）

**(オ) 県博の行事等の案内、要項を年8回開催の友の会企画委員会で随時発送**

**カ. 博物館事業への協力**

県博日曜講座の一部を博物館行事への参加

## 8. 博物館利用者入館状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年 度	総 利 用 人 数				開館 日数	1日平均 利用人員
	一 般	高・学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,341	837	14,905	41,083	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133
平28	26,620	1,417	16,931	44,968	304	148
平29	31,074	1,631	17,614	50,319	303	166
平30	27,889	1,419	18,575	47,883	304	158
令元	27,743	1,399	18,097	47,239	303	156
令2	12,384	1,014	9,101	22,499	291	77
総 計	1,891,440	201,520	888,244	2,981,204	12,100	-
平 均	46,133	4,915	21,664	72,712	295	254

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で4/25から5/6まで臨時休館

令和2年度月別入館者数

区 分	総 利 用 人 数				開館日数	1日平均 利用人員
	一 般	高・学生	小中学生	計		
4	427	30	228	685	21	32.6
5	531	23	329	883	21	42.0
6	633	57	398	1,088	25	43.5
7	1,638	208	1,230	3,076	28	109.8
8	1,685	160	1,257	3,102	29	106.9
9	985	68	1,206	2,259	17	132.8
10	1,172	54	1,218	2,444	27	90.5
11	1,502	84	1,075	2,661	25	106.4
12	731	167	303	1,201	24	50.0
1	793	43	451	1,287	24	53.6
2	1,162	59	682	1,903	24	79.2
3	1,125	61	724	1,910	26	73.4
計	12,384	1,014	9,101	22,499	291	77.3

開館以来の入館者数（利用区分別）

区分 年度	個 人 利 用				団 体 利 用				免 除 利 用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,361	512	6,975	21,848	1,822	71	320	2,213	9,158	254	7,610	17,022
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
平28	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317
平29	20,101	945	10,266	31,312	1213	281	333	1,827	9,760	405	7,015	17,180
平30	18,504	685	11,867	31,056	696	98	244	1,038	8,689	636	6,464	15,789
令和元	17,592	805	10,244	28,641	578	29	157	764	9,573	565	7,696	17,834
令和2	9,091	522	5,844	15,457	116	116	161	393	3,177	376	3,096	6,649
総計	1,117,542	57,586	332,527	1,507,655	440,675	16,337	39,561	496,573	333,223	127,597	516,156	976,976
平均	27,257	1,405	8,110	36,772	10,748	398	965	12,112	8,127	3,112	12,589	23,829

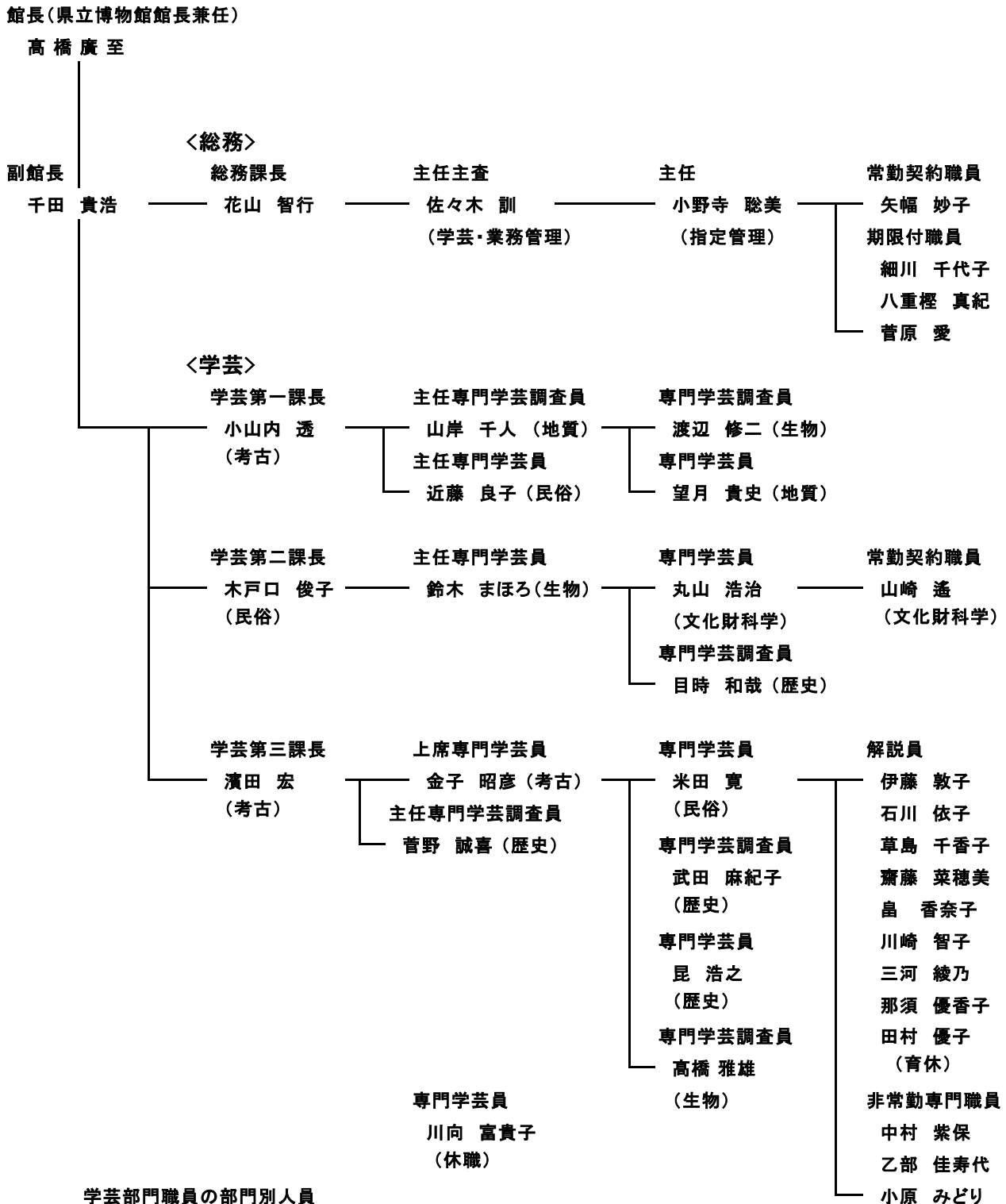
令和2年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
4	345	30	217	592	0	0	0	0	82	0	11	93
5	376	21	272	669	0	0	0	0	155	2	57	214
6	543	37	350	930	0	19	0	19	90	1	48	139
7	1,366	60	1,021	2,447	55	33	76	164	217	115	133	465
8	1,501	88	1,059	2,648	10	0	58	68	174	72	140	386
9	715	34	450	1,199	4	34	0	38	266	0	756	1,022
10	812	34	444	1,290	0	0	0	0	360	20	774	1,154
11	790	30	351	1,171	26	3	3	32	686	51	721	1,458
12	415	34	250	699	3	27	0	30	313	106	53	472
1	501	40	262	803	8	0	14	22	284	3	175	462
2	843	56	500	1,399	0	0	0	0	319	3	182	504
3	884	58	668	1,610	10	0	10	20	231	3	46	280
計	9,091	522	5,844	15,457	116	116	161	393	3,177	376	3,096	6,649

# 9. 令和2年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織

令和2年度 公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織図

R2. 4. 1



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史(古美術)	民俗	生物	文化財科学	休職	計
2人	3人	4(1)人	3人	3人	2人	1人	18(1)人



# 10. 岩手県立博物館使命書

(平成20年3月25日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

## 1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

## 2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

## 3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

# 1 1. 関係条例・規則等

## (1) 博物館条例

昭和 55 年 7 月 15 日条例第 41 号

(設置)

第 1 条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第 1 条の 2 博物館の管理は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第 1 条の 3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第 2 条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第 1 項の許可に条件を付することができる。

第 3 条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第 3 項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第 3 項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第 4 条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。

(2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。

(3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。

(4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。

(5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第 5 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第 2 条第 1 項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第 3 項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

(1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。

(2) 第 2 条第 3 項の条件に違反したとき。

(3) 偽りその他の不正な手段により第 2 条第 1 項の許可を受けたとき。

(4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。

(5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第 3 条第 1 項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第 3 項」とあり、及び「第 2 条第 3 項」とあるのは「第 3 条第 2 項において読み替えて準用する第 2 条第 3 項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第 6 条 第 2 条第 1 項の許可を受けた者（以下「入館者」という。）は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第 7 条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。

(2) 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条第 4 項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者（15 歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手

帳の交付を受けているときは、当該 15 歳未満の者）、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 45 条第 2 項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。

(3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第 8 条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

(1) 第 5 条第 1 項第 4 号又は第 5 号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。

(2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。

(3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第 9 条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第 10 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条第 1 項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員 15 人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第 11 条 この条例の実施に関し、第 6 条から第 9 条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 6 条関係）

区 分	個 人	20 人以上の団体
学生	1 4 0 円	1 人につき 7 0 円
一般	3 1 0 円	1 人につき 1 4 0 円

備考 1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額（以下「特別入館料」という。）を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料（特別入館料を除く。）は、無料とする。

## (2) 博物館条例施行規則

昭和 55 年 9 月 26 日

規則第 78 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、博物館条例（昭和 55 年岩手県条例第 41 号。以下「条例」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第 2 条 条例第 6 条第 1 項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則（昭和 55 年岩手県教育委員会規則第 9 号）第 4 条第 2 項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第 7 条の規則で定める者)

第 3 条 条例第 7 条第 2 号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児）及びその介護を行う者
- (2) 条例第 7 条第 2 号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15 歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該 15 歳未満の者）若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児）と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者

- (3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者

（入館料の免除及び還付）

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免除又は還付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別に定める様式による入館料免除（還付）申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

- 2 知事は、前項の入館料免除（還付）申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めるときは、別に定める様式による入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとする。

附 則（平成21年3月13日規則第7号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

### （3）岩手県立博物館管理運営規則

昭和55年9月26日  
教育委員会規則第9号

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- （1）月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）

に当たるときは、その翌日以後の日であつて当該休日に最も近い休日でない日）

- （2）資料整理日（資料の整理、点検等を行う9月1日から9月10日までの10日間をいう。）

- （3）12月29日から翌年1月3日まで

2 博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）第1条の2に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

（開館時間）

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館時間は、午後4時までとする。

- 2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

（入館許可の申請）

第4条 条例第2条第1項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

- 2 指定管理者は、条例第2条第1項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

（撮影、貸出等の許可）

第5条 条例第3条第1項の規定による許可を受けようとする者は、別に定める様式による資料撮影等許可（変更）申請書又は別に定める様式による資料貸出許可（変更）申請書を博物館長に提出しなければならない。

- 2 博物館長は、条例第3条第1項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。

- 3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。

- 4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損（損傷、亡失）報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

（汚損等の届出）

第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

(協議会の所掌)

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- (1) 資料の収集、保管、展示等に関すること。
- (2) 資料の調査研究、利用等に関すること。
- (3) その他博物館の運営に関すること。

(会長)

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第9条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(補則)

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則(平成21年3月6日教育委員会規則第2号)

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続に関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員

会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則

(以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。)に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。

- 3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる



令和2年度岩手県立博物館年報  
令和3年6月1日

編集：岩手県立博物館  
〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34  
Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214  
発行：公益財団法人岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 盛岡市内丸13-1  
Tel 019-654-2235